

8

E-0515

0042

電信課長
秘

大臣

次官 (集)

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 米洲 調查

寫送先

昭和9 6.13 一七六九 暗 哈府 本省 六月十二日前着 歐

廣田外務大臣 第四〇號ノ一(極秘) 鳥田總領事

貴電合第六三三號ニ關シ
當地ニ於ケル商品價格ハ五月十日普通第六三號往信ノ通大體「トル
グシン」ノ金留建ノ外紙幣留ニ依ル商業、國定、標準ノ三種アルモ
（尙外ニ農漁民カ公設市場ニ於テ野菜魚肉等ヲ紙幣留ニテ自由ニ販
賣スル者アルモ商品ノ種類及數量ハ極メテ少量ニシテ價格ニ殆ト標
準ナシ）金留建ト商業價格ニ依ル商品以外ハ少量且品質區々ナルカ
爲價格ノ比較ヲ求ムルニ適セサルニ付品質略同一ナル商品ニ付右ニ

外務省

種ノ價格ノミヲ對比セハ別電第四一號ノ通ナリ然ルニ右兩者ノ比率
ヲ以テ現時ニ於ケル金留對紙幣留ノ比價ト見ルヲ得ス其ノ理由左ノ
如シ

一、「ト」商店ノ賣値ハ中央又ハ蒲潮極東本部ヨリ指示ヲ受クルモノ
ニシテ其ノ算出方法ハ當地ニテ不明ニシテ當地生産品ト雖其ノ仕
入値ニ關係無ク中央ノ指定値段ニテ販賣シ居レリ尤需要ノ現況ニ
從ヒ地方的ニ時々價格ノ上下ヲ爲ス事アリ殊ニ本年一二月中十回
値下ヲ爲シ織物既製洋服類ノ如キハ一度ニ四割内外ヲ値下セリ

(續ク)

外務省

極秘
電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 米洲 調查

寫送先

昭和9.13
6.11

哈府
本省

十一日後發
六月十二日前着

歐一

廣田外務大臣

島田總領事

第四〇號ノ二(極秘)

然ルニ他ノ商店ハ毛皮店ノ外之ニ追隨スルモノナシ「ト」ノ
各種商品ノ値段ハ内外品トモ大體戰前ト大差ナク就中食糧品ニハ安
キモノサヘアリ
ニ紙幣「ルーブル」建テノ價格ハ算出ノ基礎ヲ對金留比價ニ求メル
事ナク其ノ生産原價ヲ基準トシテ産出スルノ形式ヲ取り居ルモ其ノ
生産原價ハ如何ナル貨幣價格ヲ標準トナシ居ルヤ明確ナラス
三政府ノ財政計畫ニ於ケル金額ノ標準力曩ニハ戰前ノ金留ナリシニ

外務省

其ノ後ハ二十六、七年ノ紙幣留ヲトリ最近ハ三〇年ノ紙幣留ヲ用ヒ
居ルモノサヘアリ
四別電ノ數字ニ依リ商品殊ニ金留及紙幣留ニ依レル價格ノ比率ヲ算
出スルニ其ノ比率ハ大小數多アリテ其ノ間劃一的ノモノヲ發見スル
能ハス
左リトテ紙幣留ノ下落率ヲ判定スルニ勞銀ヲ戰前ニ比較シタル増加
率ヲ以テスルハ社會一般狀態一變セル今日妥當ナラス又各地ニ於テ
紙幣留ノ所謂暗黒相場モ一定ノ基準ナキヲ以テ取ルニ足ラス其ノ他
何レノ方法ヲ以テスルモ金融財政狀態混沌タル今日本件下落率判定
上適切ナル資料無シト云フ外無シ(續ク)

外務省

E-0515

0044



電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 米洲 調査

寫送先

大關

昭和9年6月11日

一七五二 暗

哈府

六月十二日前着

歐一

廣田外務大臣

島田總領事

第四〇號ノ三(極秘)

然ルニ現在「トルグシン」ニ於テハ店員カ誤テ店ニ蒙ラシメタル損
害ヲ一金留ニ付二十五留替ニテ賠償セシメ居リ又別電兩種ノ價格決
定方法ニ共通ノモノアリト假定ノ上商品ヲ大別シ金留對留ノ比率ヲ
求ムルニ麵麩ハ二十分ノ一其ノ他食料品ハ六十七分ノ一、靴類ハ二
十三分ノ一、布、綿、洋服類ハ十六分ノ一トナリ之ヲ平均セハ約二
十四分ノ一トナリ大体右二十五留替ト一致スヘシ故ニ其ノ實際ノ取
扱振ヨリ判斷スレハ右換算率ヲ以テ妥當トスルヤニ思考セラル

外務省

序ナカラ卑見ニ依レハ目前ノ換算率改訂商議ニ於テハ前記ノ實狀ニ
拘ラス行懸上從來通ノ暫定取極ヲ爲ス等已ムヲ得サルモノ有ランモ
大局ヨリ見ルニ國價暴(落)ト同時ニ留價下落ハ殆ント測定ス可カ
サルモノアリ然シナカラ留價ニハ事實爲替相場ナキヲ以テ兩者ノ間
ニ換算率ヲ定メントスルコトハ無理ナル企ト謂フ可ク將又假令前記
二十五留替ヲ基準トシテ一見我方ニ有利ナル妥結點ヲ見ルコトアリ
トスルモ其ノ後ノ漁區入札ニ當リテハ借區料ノ呼値暴騰ニ依リ殆ト
利スル所無キヲ餘儀無クセラル且ツ他面漁區競賣ノ不正蘇側漁業
ノ外國市場ニ於ケル不當競争(極言セハ蘇聯邦生產品ニハ貨幣ヲ以
テ表ハスヘキ言葉ナシ)等ニ想到スレハ少クトモ漁區ノ取得ニ付競
賣制度ヲ廢止シ兩國間ノ合意ニ依リ漁區ヲ割當テ現實的ニ對蘇均等

外務省

權ヲ獲得スルノ要アルヘシ
露ヘ轉電シ、浦塩ヘ暗送セリ

外
務
省

E-0515

0046

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 會社 米穀 調查

寫送先

昭和9 一一七六六 6.13 暗 哈府 本省 六月十一日後發 歐一 六月十二日前着

廣田外務大臣 第四一號(別電)

本電報中數字ハ夫々頭書ノ商品ノ價格ニシテ其ノ上段ハ所謂商業價格ヲ下段ハ「トルグシン」ノ金留建ヲ示シ又「ル」ハ留ヲ「カ」ハ哥ヲ意味ス
麵麩一疋二「ル」五〇「カ」一「二」一「カ」
牛酪一疋五六乃至四二「ル」一七二乃至五〇「カ」
乾酪一疋四〇乃至五〇「ル」一六〇乃至八〇「カ」
腸詰一疋三二乃至四〇「ル」一四五乃至九〇「カ」

外務省

砂糖一疋一三「ル」一二八「カ」
火酒一立三二乃至四〇「ル」一三六「カ」
男物皮製編上靴一足一五「ル」一四「ル」七五「カ」乃至六「ル」
婦人用皮製靴一足七〇乃至一〇「ル」一三「ル」五〇「カ」乃至五「ル」七五「カ」
更紗木綿一「メートル」三乃至五「ル」一八乃至一「二」一「カ」
縹子一「メ」四乃至八「ル」一五乃至二五「カ」
絹織物一「メ」四〇乃至六〇「ル」一四五「カ」乃至一「ル」八〇「カ」
既製洋服冬物男物一着一四〇乃至二〇〇「ル」一六乃至二〇〇「ル」
露へ轉電シ、浦潮へ暗送セリ

外務省

E-0515



手紙

レバリア

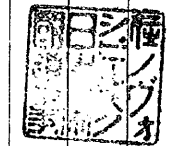
郵政局

普通第一三三号

昭和九年十二月六日

左ノゾシビルスク

領事代理小柳若生



外務大臣 廣田弘毅殿

調査部
第三課

E-2.1.0.1

当地トルグレンノ業務関係概シ用ニ報告ノ件
 一九三〇年十二月一日開設セラレタル当地トルグレンハ、(一)当地一般
 物資欠乏程度ニ甚ダシク、トルグレン以外ニハ容易ニ希望物
 買入チ困難ナリシコト、(二)トルグレンニ於テハ対外人商業橋頭
 タル体面ニ基キテ、手荷面等ニハ相違無ク、自國産品ノ最上
 等品ヲ集メシタルノミナラス、外國品ニ對シテも、輸出ノ店舗ノ販

賣高ノ増ヤリト努カシラレド、(三)當時一般露人同ニハ、在庫量ノ他
 ノ貴重品ヲ貯蔵シ居リシニ、面々散居リ、生命保障ノ爲ニ、其
 ノ所持品、面々物々皆、踏踏ニナリシ等、事情ナリ、当地トル
 グレンノ店舗ハ、概シ以上ノ繁榮ヲ示セ、老問噂ナル所ニ、販
 賣盛時ニハ、一日平均三ヶ屋留ノ量ニ上リ、又、露人タル、トルグレン
 券ハ、一屋留ノ相場五ヶ屋留ニ達シ、トリノコトトルガ、本年ノ入り為
 地、トルグレンノ局面ハ、一變ニ漸リ、衰微ノ傾向ヲ迎ルニ至レリ。
 トルグレンノ物價ハ、全般的ニ、海外ノ高騰タルコトハ、既に足許イ
 ル所イルガ、ソノ為局ニ於テモ、右ノ留意シタル結果ニ、当地トルグ
 レンハ、朝敵煤炭ノ販賣、煤炭ノ引下ナリ、今日ニ至リテハ、
 数種物品ノ如キハ、三分ノ一以下ニ引下ナレ、一般的ニ、トルグレン
 ノ物價ハ、半減トナリ、煤炭ノ如キハ、面々一般大衆ノ購買力ハ、漸次
 シテ、ナリ。



右玉田ハ全銀其他支屋屬所將者ノ如ド在都カ統。トルゲン
ンノ物事ト代ヘラレ民衆ノ手計ニ當無トイリタルコト。是外ハ不
況ノ海外同ヨリノ迷屋新ヤコト。一般ハ物資状態改善セラレ
来リ。他ノ店舗ニラ紙幣等ニテ同ノ多クボタル。ニ多リタルコト
トルゲンレ取扱者ノ下シタルコト。殊ニ外国ヨリ運少トイリタ
ルコト等ヲ考グルコトヲ俾ル。

トルゲンレ在ハ不況ニ對抗スル爲、前記ノ如ク一般ハ物
産ノ引下ヲ好ミ觀望ヲ迎ヘントスル一方、本夏ヨリ「ダイヤモンド」
其他ヨリ、受入ヲ開始シ紙上ヲ以テ至薄大イニ勞ル所イリ。
其、繁榮ヲ取戻サント盡力セラル。当地方在民ハハ断ル至右ヲ
所持スルニ極メテ斷々高効果考ラズ。他面昨今白貨店カ由
若ク亮望ニテトルゲンレ取扱者ト同ノ多ク運出シタル原因ニ
リ依然トシテ面ヨリ改メルヲ俾ル。最近ニ至リテハ外国ヨリ如ド

皆無ノ有様トイリ全銀受入ノ場所ニ人形薄ク、店舗外ハ花ヲ
トルゲンレ居テ報費セントスルニ、教員並テ多クイリ来リ。其ノ相場
スシイ且留前夜。暴落シ面ニ憂鬱希望者稀ナル状態ニイリ。
要スルハ大衆ノ所將全銀若クイリ、ソノ局外同ヨリ輸入セ
バトルゲンレ取扱者下レ反對ニ般物資状況改善セラレ居ル
今日トルゲンレノ業務ハ急相落シ一途ヲ辿ルニト認メタルヲ
俾ル。

送而当地方地ノトルゲンレ卸ケットムスリ、バルナワル等ニ同
様最ニレ来リト。
右報告ス。

本誌寄送付先
左ノソグイスト稱邦代理大受



歐亞局

機密公第八號

昭和十年一月六日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

「トルグシム」ニ關スル件

「トルグシム」ハ「Торговля с иностранцами

即チ外國人相手ノ外

貨販賣店ナル處一般人民中ニハ現政府政策ニ不滿ナル者多キ爲メ之

ヲ Товарищи. Опонитесь, Россия гибнет, Сталин Истощает

народ (諸士ヨ露西亞ハ亡ビ「スターリン」ハ人民ヲ飢餓ニ頻セ

シムルコトヲ目省セヨ)ナリト稱シ居レリ

在オデッサ日本領事館

E2.1.0.1

洋子
昭
和
拾
年
壹
月
廿
壹
日
接
受

昭
和
拾
年
壹
月
廿
壹
日
接
受



斯ノ如キ諸條ハ多種多様ナルモ右ハ當地方ノ物資供給ニ關スル限り
其實情ヲ穿テ待タルモノト認メラル、ニ付報告ス
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

歐亞局

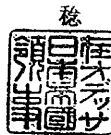
公第一七號

昭和十年一月八日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿



「トルグシン」經營ノ骨董部閉鎖ニ關スル件

當市「トルグシン」經營ノ最大且殆ント唯一ノ骨董部ハ收支償ハストノ理由ニテ客年末限り閉鎖セラレタリ

當市ニハ其他ノ都市ト同シク「トルグシン」經營以外ノ骨董品ノ賣買ヲナス商店 多シ右「トルグシン」骨董部ニ於テハ手数料賣價ノ六十%ヲ徴シ其他ノ骨董商ハ手数料四十%ナルヲ以テ骨董賣却ヲ欲

在オデッサ日本領事館

E2.1.0.1

スル者ハ「トルグシン」ニ在リテハ金留連ニテ有利ナルモ餘リニ高率ノ手数料ナル爲メ之ヲ利用スルコト少ナク且「トルグシン」ニ出入シ得ル味聊人ハ偶外國ヨリ外貨送金ヲ受ケタル者カ、殆ント夏期間ノミニ限ラル、外國旅客ノミナルヲ以テ「トルグシン」存在理由少ナキヲ以テ遂ニ今回閉鎖スルコト、ナリタリト云フ

右閉鎖ノ結果「トルグシン」經營ノ骨董部ハ單ニ「ロンドン・ホテル」ノ一偶ニ設ケラレタル極メテ小規模ノモノノミトナリタリ

右報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

手記 平田 領事

昭和十年一月廿五日接受

昭
和
十
年

歐
亞
局

公
第
一
〇
八
號

昭
和
十
年
五
月
十
日

在
武
市

領
事
代
埋
下
村
未
郎



通
二
五
三
改
付

通
商
局

外
務
大
臣
廣
田
弘
毅
殿

當
地
「トルグシン」へ日本品出現ニ關スル件

當
地
蘇
聯
人
ノ
私
藏
セ
ル
金
銀
財
貨
吸
収
ノ
目
的
ヲ
以
テ
設
立
セ
ラ
レ
タ
ル
當
地
「トルグシン」ハ早クモ其ノ目的ヲ遂行シ今ヤ吸収センニモ限リ
アリタル當
地
蘇
聯
人
ノ
私
藏
セ
ル
金
銀
財
貨
ハ
積
蓄
シ
盡
シ
タ
ル
モ
ノ
ナ
ル

在
ブ
ラ
ゴ
ウ
エ
ス
チ
エ
ン
ス
ク
領
事
館

ル
ヘ
ク
紙
幣
留
連
商
店
ノ
混
雜
ニ
引
キ
返
ヘ
「トルグシン」ハ只
管
要
廠
ノ
一
途
ヲ
回
リ
ツ
ツ
ア
リ
尤
モ
店
内
ニ
ハ
蘇
聯
人
品
ト
思
フ
キ
洋
服
品
、
蘇
聯
製
ノ
出
來
合
外
套
及
婦
人
洋
服
類
、「ジャケツ」
、「靴類」
、「ネクタイ」
、「ベレー」
帽
、
化
粧
品
等
ノ
小
冊
物
類
、
牧

在
ブ
ラ
ゴ
ウ
エ
ス
チ
エ
ン
ス
ク
領
事
館

E-0515

0052

味ヲ提煉シツツアリ毎年五月頃「トルグシン」へ日本ノ柑類輸出規
 スルハ敢テ珍ラシカラサルモ本年ハ柑類以外日本品ト思シキ雨外
 套、湯呑茶碗、雞肉罐詰明ニ日本品タル鎌倉「ペコン」等屋ノ桃、
 枇杷、密柑、「ハイナップル」等ノ果物罐詰出ルシ相違ナル蘇聯品
 ノ中ニ在リ一其彩ヲ成チツツアリ殊ニ價格モ相違ナル蘇聯品ニ比シ
 割安ナルニ依リ買行良好以テ外國品ニ付無智識ナル當局一部蘇聯人
 間ニ日本品ノ眞價ヲ高メツツアリ
 右日本品ノ輸入経路ハ定カナラサルモ内果物罐詰類ハ北歐從業員ヨ
 リノ没収品ニ非ラスヤト思ハルル節アリ
 今此等日本品ノ「トルグシン」買値ヲ示セハ左ノ通

| 品名 | 單位 | 仕値 | 買價 | 格 |
|----|----|----|----|---|
|----|----|----|----|---|

在ブラゴウエスチエンスク領事館

| | | | |
|--------------------|------|-----|-----|
| 柑類 | 一疋 | 金留建 | 四〇哥 |
| 雨具 | 一着 | 同 | 六留 |
| 湯呑茶碗 | 皿付一個 | 同 | 八哥一 |
| 雞肉罐詰 | 一罐 | 同 | 一二哥 |
| 鎌倉ペコン | 一包四疋 | 同 | 六〇哥 |
| 桃罐詰 | 一罐 | 同 | 三〇哥 |
| 枇杷罐詰 | 同 | 同 | 二五哥 |
| 密柑罐詰 | 同 | 同 | 二五哥 |
| ハイナップル罐詰 | 同 | 同 | 二〇哥 |
| 「任」邦貨壹圓ハ金留建露貨三一哥ナリ | | | |

在ブラゴウエスチエンスク日本領事館



敬照 閣

公普通第三九〇號

昭和十年十一月十六日

在「ソヴィエト」聯邦

特命全權大使 大田 爲 吉



通商局

外務大臣 廣田 弘毅 殿

對外國人商業全聯邦「トルグシン」廢止ニ關スル
決定譯報ノ件

本件ニ關シ十一月十五日當地各紙ハ十一月十四日附「トルグシン」
ノ廢止、外國貨幣ニ對スル「インツォーリスト」ノ取扱振並ニ外貨ニ
對スル留換算率ノ標準ヲ定メタル「ソ」聯邦人民委員會會議決定ヲ發
表セルニ付右決定別紙ノ通り譯報ス

字一五〇九

在ソヴィエト聯邦日本大使館

昭和拾年三月廿四日授受

E-0515

0054

對外國人商業全聯邦聯合「トルグシン」廢止ニ關スル
「ソ」聯邦人民委員會議決定

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會議ハ左ノ通り決定ス
第一條 一九三六年二月一日以降ニ於ケル對外國人商業全聯邦聯合
「トルグシン」ノ廢止及之ニ屬スル商店網ノ「ソ」聯邦國內商業
人民委員部ヘノ讓渡ニ關スル同聯合ノ提議ヲ承認ス

第二條 對外國人商業全聯邦聯合「トルグシン」ニ對シ本決定公布
ノトキヨリ一切ノ商取引ニ付記名式「クーボン」ノ發行ヲ停止ス
ヘキコトヲ提議ス但シ十二月十五日迄ニ外國ヨリ接到スル爲替ニ
對スルモノハ此ノ限ニアラス記名式「クーボン」ニ對スル商品ノ
給付並ニ現金タル外國貨幣ヲ對象トスル商行爲及外貨債券ニ依ル
差引計算ハ一九三六年二月一日迄之ヲ行フコトトス

第三條 國際觀光全聯邦株式會社「インツォーリスト」ニ對シ左ニ掲

在ソヴィエト聯邦日本大使館

クル事項ヲ提議ス

(イ) 一九三六年一月一日以降「ソ」聯邦領土内ニ於テ外國貨幣ヲ對
象トスル商行爲及一切ノ勞務提供ヲ停止スルコト

(ロ) 國外ニ於テハ外國貨幣ニ依リ右外國貨幣ヲ建値トスル規定ノ料
金ニ依リ周遊切符ヲ發賣スルコト

(ハ) 「ソ」聯邦ヨリ外國ヘ向ケ發航スル「ソヴィエト」飛行機及汽
船ノ切符ハ「ソヴィエト」貨幣ヲ以テ發賣スルコト

(ニ) 國際連絡鐵道切符並ニ「ソ」聯邦ヨリ外國ヘ向ケ發航スル外國
ノ汽船及飛行機ノ切符ニ對スル料金ハ「ソ」聯邦領土ニ於ケル
行程ニ付テハ「ソヴィエト」貨幣ニ依リ「ソヴィエト」領土外
ノ行程ニ付テハ外國貨幣ヲ以テ徵收スルコト

(ホ) 食堂車及停車場内食堂ニ於ケル一切ノ商行爲ハ悉ク「ソヴィエ
ト」貨幣ヲ以テスルコト

第四條 「ソ」聯邦ニ於ケル觀光ヲ發達セシメ外國貨幣ヲ吸收スル

在ソヴィエト聯邦日本大使館

爲「ソ」聯邦國立銀行ニ對シ一九三六年中國立銀行出納所ニ提示
セラルル外國貨幣ハ其ノ爲替タルト又ハ現金タルトヲ問ハス之ヲ
現在ノ相場ニ依リ一佛法ニ付三三哥三分ノ一又ハ三法ニ付一留ノ
割合ヲ以テ「チエルヴオネツ」ニ交換スルコトヲ許可ス其他ノ貨
幣ハ夫々之ニ應シテ換算ス

第五條 國立銀行ハ必要數ノ兩替所ヲ開設スヘシ

「ソ」聯邦人民委員會々長

ヴェ、モロトフ

總務部長

イ、ミロシニコフ

一九三五年十一月十四日 莫斯科市「クレムリ」

在ソヴィエト聯邦日本大使館

電信課

大臣

次官

東亞

歐洲

通商

條約

情報

文化

調査

人事

文書

會計

秘書官

昭和10 一八四五二

11.18 平

莫斯科 十六日後發
本省 十一月十七日前着

歐

廣田外務大臣

第五七五號

大田大使

十四日「トルグシン」廢止及留換算率等ニ關スル決定公布セラレタルカ要點左ノ如シ

一、來年二月一日以後「トルグシン」制度ヲ廢止ス

二、本法令發布ト同時ニ「トルグシン」ハ記名式前拂通帳ノ發行ヲ停止ス但シ十二月十五日以前ニ授受セル外國ヨリノ送金並ニ従前發行ノ通帳及外貨現金ニ依ル商品ノ取引ハ一月末限リトス

三、國內「インツォリスト」ノ外貨取引ヲ一月一日以後停止ス

外務省

四、一九三六年中「ゴスバンク」ニ依ル留ノ外貨交換率ヲ一留ニ付三佛貨法トス
委細郵報

外務省

E-0515

0057

電信課長

大臣
次官

東亞
歐洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
文書
會計
秘書官

寫送先

昭和10 一八四八二
11.20 暗

莫斯科
本省
十一月十八日前着
歐

廣田外務大臣

第五七六號ノ一

往電第五七五號ニ關シ（「トルグシン」廢止及留換算率ニ關スル法令公布ノ件）

右法令公布ヲ見タルハ

(1) 近時輸出超過ニ依ル國際貸借關係ノ改善、國內產金增加等ノ結果
外資吸收ノ必要ヲ減シ
(2) 從來異レル二、三種ノ物價併存シ民心ニ不安ヲ與ヘタル狀態ヲ終
止スル爲物價統一ノ必要アリタル點

外務省

冬子 廣田外務大臣

等ヲ其ノ主要動機ト認メラルモ右法令カ果シテ獨立セル一財政措置ニ過キササルヤ將又次テ來ルヘキ幣制改革ノ一前提ナリヤ不明ナル今日之カ當國經濟金融界ニ及ホス影響ヲ豫斷スルコト困難ナルカ其ノ直接影響トモ謂フヘキ點ヲ舉クレハ左ノ如シ
一、右法令ノ適用ハ在留外人及外貨支拂ヲ受クル其ノ使用人、外國送金受領者、貴金屬其ノ他有價物件ノ換貨希望者ニ限ラレ一般蘇聯人ニハ著シキ影響ナシ（續ク）

外務省

E-0515

0058

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10 一八四八三 暗 莫斯科 十七日後發 歐
本省 十一月十八日前着

廣田外務大臣

大田大使

第五七六號ノ二

ニ外國人ハ從來ノ「トルグシン」値段ニ依ル物資購入ノ途ヲ失ヒ此ノ際物價ノ急下落ナシトセハ新交換率ニ依ル蘇貨ヲ以テ大體現在ノ紙幣留値段ニテ購入ノ外ナク例ヘハ鷄卵一個四十六錢、砂糖一匁三圓二十錢、女中月給百圓内外トナルヘシ
三右不公正ヲ除去スル爲ニハ平均物價ヲ十分ノ一程度ニ引下クル必要アルモ勞働賃銀其ノ他ノ關係モアリ之カ實現ニハ困難ヲ伴フヘシ

外務省

四外資吸收ノ必要薄ラキタル爲ニ故意ニ企テラレタリトノ疑アリ
シ露貨ノ國外流出一層減少スヘク從來ノ傾向ニモ顧ミ暗黒露貨ノ供給ニ付テハ悲觀說強シ
尙右制度變改ニ基キ當館會計經理立直シノ具體案ハ今暫ク形勢ヲ見極メタル上追報スヘク右法令カ我權益關係ニ何等影響アリヤ否ヤノ點ハ攻究ノ上必要ニ應シ申進スヘシ(了)

外務省

昭和拾年三月廿日 接収

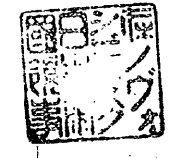
歌留局

通事 三六号

昭和十年十一月十七日

在ノウオシルスク

領事 ハ柳雪生



外務大臣 廣田三郎殿

トルグシニ 廃止ニ関スル件

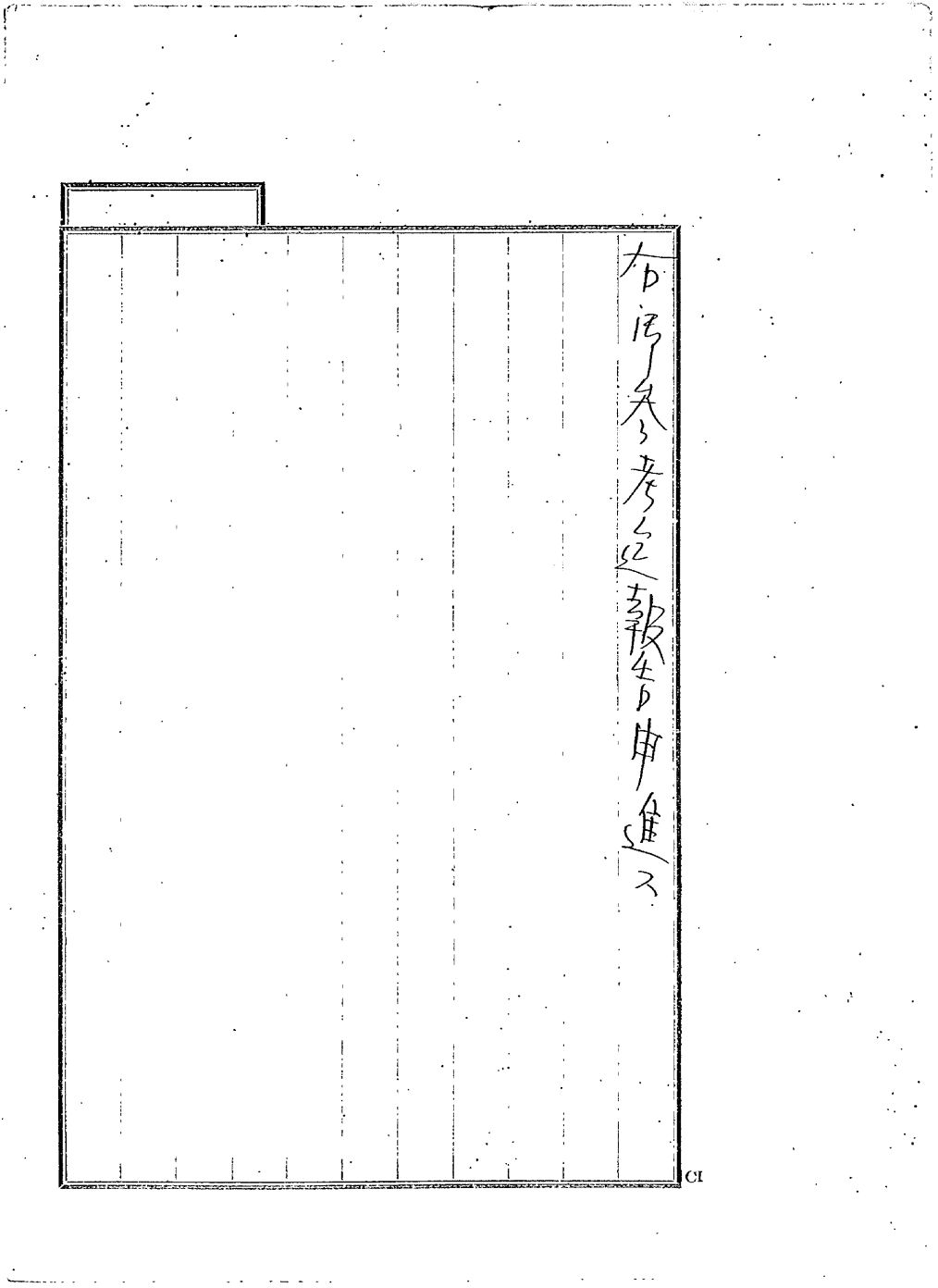
E21.0.1

且最近当地方ニ於ケル百貨店(ウニセルマ)ノ進出
著シク且ツ其内容之実セルヲトルグシニノ業務
不振ニ関シテハ客年十二月十三日附並通事オ三六

号掲載ヲ以テ報告ノ次オアリタル處十一月十五日
発行当地機関紙「ソウエトス」ニシテ紙ハトルグシニ
廃止ニ関シ今月十四日附莫斯科送外通事トシテ
ソウエトス社ニテ義共利国聯邦人民委員
會議ハ一九三五年二月一日ヨリトルグシニヲ廃止
シコシガ経房日ヲ蘇聯邦内國產業者人民委員
部ヲニテ當ラシカル事ノ全蘇聯邦トルグシニ解
盟ノ提案ヲ裁可シ一九三五年十二月十五日
迄ニ外國ヨリ送金シ来レルモノヲ除キテハ他ノ
如何ナルトルグシニ券モ其ノ通用ヲ廢止スル
七日掲載し居リ

E-0515





右
河
久
考
之
報
全
申
進
ス

CI

E-0515

0061

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

歐亞局

公第二三九號

昭和十年十一月十八日

在武市

領事代理 下村 未 郎



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

當地「トルグシン」廢止ニ關スル件

一九三一年十月他地方同様蘇聯人ノ私藏スル金銀財寶及外貨吸引ノ目的ヲ以テ設立セラレタル當地「トルグシン」ハ限リアリタル當地蘇聯人ノ金銀財寶及外貨ハ既ニ之ヲ吸引シ盡シタル爲紙幣留商店、販賑ニ引替へ衰微ノ一途ヲ辿リツツアル趣ハ本年五月十日附公第一〇

在ブラゴウエスチエンスク領事館

2.1.0.1

八號掛信報告ノ通ニシテ其ノ廢止ハ早晚來ルヘキモノト豫想セラレ居リタル處今般愈々人民委員會議決定ヲ以テ「トルクシン」ハ一律一九三六年二月一日ヲ期シ廢止セラレ其ノ所屬商業網ハ國內商業人民委員部ニ移讓セララル事トナリタリ
移讓後ニ於ケル商店ノ構成、販賣建値、販賣狀況等ニ付テハ當地「トルグシン」ニ付確ムルモ未タ何等指令ニ接セストテ要ヲ得サルモ當地ニ關スル限り「トルグシン」愈々廢止セラルルトモ既ニ之ヲ利用シ能ハサリシ一般市民ニトリテハ何等ノ痛痒不便モ無キ次第ナルカ本件決定譯文ト共ニ右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

在滿大使

在黒河本多副領事

在ブラゴウエスチエンスク領事館

昭和拾年十二月廿七日接受

全聯邦「トルグシン」組合廢止ニ關スル
蘇聯邦人民委員會會議決定

蘇聯邦人民委員會會議ハ左ノ通決定ス

一、一九三六年二月一日ヲ期シ全聯邦「トルグシン」合同ヲ廢止シ其ノ所屬商業網ハ之ヲ蘇聯邦國內商業人民委員部ニ移讓セントスル全聯邦「トルグシン」合同ノ提議ヲ裁可ス

二、全聯邦「トルグシン」合同ニ對シ本決定公布ト共ニ如何ナル「オペレーション」ニ依ルトモ記名式通帳ノ交付ハ之ヲ廢止スヘク提議ス 但シ一九三五年十二月十五日迄ニ外國ヨリ到達スル爲替「オペレーション」ハ之ノ限ニアラス 交付済ノ記名式通帳ノ商品化「オペレーション」並ニ對外國正貨商業「オペレーション」

在ブラゴウエスチエンスク領事館

及正貨負債書換「オペレーション」ハ一九三六年二月一日迄之ヲ行フ

三、全聯邦「インツウリスト」株式會社ヘ左ノ通提議ス

イ 蘇聯邦領域内ニ於ケル對外國正貨商業並ニ其ノ奉仕ノ如何ヲ問

ハス對外國正貨奉仕ハ一九三六年一月一日ヨリ之ヲ廢止ス

ロ 商品ノ對外國對外國正貨賣却ハ其ノ正貨ニ付定メラレタル定價

ニ依リ爲スヘキモノトス

ハ 蘇聯邦ヨリ外國行「ソヴイェト」飛行機並ニ「ソヴイェト」汽

船ノ切符ハ「ソヴイェト」正貨ニテ賣却ス

ニ 國際鐵道ノ切符並ニ蘇聯邦ヨリ外國行外國汽船及飛行機料金ハ

蘇聯邦領域内ノ行程ニ對シテハ「ソヴイェト」正貨ヲ以テ蘇聯

在ブラゴウエスチエンスク領事館

邦領域外ノ行棧ニ對シテハ外國正貨ヲ以テ徵收ス
 ホ「ワゴン・レストラン」及停車場「プフェト」ニ於ケル總テノ
 商業ハ一律「ソヴィエト」正貨ヲ以テ之ヲ行フ
 四、蘇聯邦内ニ於ケル「ツウリスト」業務ノ發達並ニ外國正貨吸引
 ノ爲蘇聯邦國立銀行ニ對シ一九三六年中外國正貨ハ爲替タルト將
 又國立銀行ノ「カツサ」ニ提出セラレタル現金タルト問ハス現
 在ノ「クルルス」ニ依リ算出シ之ヲ「チエルウオネツ」ニ交換
 スル事ヲ許可ス 即チ佛貨一法ハ三三哥三分ノ一或ハ佛貨三法ハ
 其ノ他正貨ニモ夫々換算シ得ル一留ニ等シ
 五、國立銀行ハ必要數ノ交換所ヲ組成スヘキモノトス
 蘇聯邦人民委員會議長
 「モロトフ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

同 總務部長「イ・ミロシユニコフ」
 一九三五年十一月十四日莫斯科「クレミリン」

在ブラゴウエスチエンスク領事館

歐亞局

公第二一〇號

昭和十年十一月十八日

在オデッサ

領事 平田



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「トルグシン」廢止ニ關スル件

十一月十六日附「ウクライナ」政府機關紙「ビスチ」(莫斯科)「イ
ズエスチャ」及「ブラウダ」十一月十五日附「所報ニ依レハ蘇聯
邦人民委員會議ハ本年十一月十四日附ヲ以テ全聯邦合同「トルグシ
ン」廢止ニ關シ左記決定ヲ公布セリ
右報告申進ス

昭和拾年三月拾四日接受

子部上長 敏一 申

在オデッサ日本領事館

E2.1.0.1

E-0515

0065

記

全聯邦合同「トルグシン」廢止ノ件

一、一九三六年二月一日以降「トルグシン」ヲ廢止シ之ヲ蘇聯邦内國商業人民委員部ニ移管セントスル全聯邦「トルグシン」合同ノ提議ヲ承認ス

二、本決定公布ノ日ヨリ記名金票帳ハ如何ナル業務ニ對シテモ發行ヲ禁止スヘキコトヲ提議ス但シ一九三五年十二月十五日迄外國ヨリ接受スル爲替ニ依ル業務ハ之ヲ除ク、既ニ發行ノ金票帳ニ依ル販賣行爲、塊金外貨營業並ニ外貨債務ノ支拂ハ一九三六年二月一日迄之ヲ行フ

三、全聯邦株式會社「イントウーリスト」ニ左ノ通り提議ス

(1) 一九三六年一月一日以降蘇聯邦内ニ於テ外貨建ニ依ル商行爲及如何ナル種類ヲ問ハス其奉仕ヲ停止スルコト

(2) 外國ニ於テ外貨建ノ遊旅行券ノ販賣ハ當該外貨料金表ニ依

在オデッサ日本領事館

ルコト

(1) 蘇聯邦ヨリ外國ニ赴ク蘇聯邦飛行機及蘇聯邦汽船ノ切符ハ蘇貨ニ依リ販賣スルコト

(2) 國際鐵道及蘇聯邦ヨリ外國ニ赴ク外國汽船及飛行機切符代金ハ蘇聯邦内ニ於ケル道程ハ蘇貨、蘇聯邦外ハ外貨ニ依リ徵收スルコト

(3) 食堂車及驛食堂ニ於ケル商行爲ハ蘇貨ノミニ依ルコト

(4) 蘇聯邦ニ於テ觀光旅行發展及外貨誘致ノ爲メ一九三六年間爲答ニ依ル外貨並ニ國立銀行ニ提出セラレ、外貨現金ノ「チエルウオネツ」交換ヲ國立銀行ニ許可スルコト、其換算相場ハ現行相場即チ一佛國法ヲ三三哥三分ノ一即チ三佛國法ヲ一留トシ其他ノ外貨換算ニ適用ス

五、國立銀行ニ所要數ノ兩替所設置ヲ命スルコト

一九三五年十一月十四日

蘇聯邦人民委員會議長
蘇聯邦人民委員會議事務取扱

ウエ・モーロトフ
イ・ミロシニコフ

在オデッサ日本領事館



調査課

歐亞局長

公第二一號

昭和十年十一月十九日

在オデッサ

領事 平出

在オデッサ
領事 平出

外務大臣 廣田 弘毅 殿

「トルグシン」廢止ニ關スル件

既報「トルグシン」廢止ノ法令當地ニ達スルヤ所有外貨ノ迅速處分
ト現行留ノ運命ヲ願願シ相當大ナル「センセーション」ヲ惹起シ居
レリ

右法令ニ依リ昭和七年以來存在セル「トルグシン」ハ愈昭和十一年
二月一日以降廢止セラレ、次第ナルカ元來「トルグシン」ハ之ニ依
リ民間貯藏金銀、寶石及外貨並ニ外國ヨリノ外貨送金（「ローゼン
ゴリツ」ノ報告ニ依ルニ「トルグシン」ハ四年間ニ二億七千萬金留
ヲ受入レタリト）ヲ吸收シ蘇聯邦ノ對外支拂能力ヲ高メンカ爲ノ臨

在オデッサ日本領事館

久子方...

昭和拾年三月拾四日接啓

時的措置ニ外ナラスシテ此等理由ノ消滅セル場合ニ於テハ早晚廢止
セラルヘキヲ豫想セラレタリ

即チ

(一)

蘇聯邦ハ荒廢セル自國産業ノ恢復、五年計畫遂行ノ爲メ多額
ノ物資ヲ外國ヨリ輸入セル結果對外支拂ノ負擔ハ龐大ナル額ニ
達セリ右負擔解決ノ爲メ一九三三年以來輸入ノ制限、國內産金
ノ増加ヲ圖ルト共ニ前記「トルグシン」ヲ開設シ民間貯藏金銀
及外貨ノ吸收ヲ圖レリ

然ルニ五年計畫企畫ノ大要業モ基本的ニ終了シ輸入ノ必要ヲ補
感セサルニ至リ他方國內工業ノ勃興及輸出増加並ニ産金ノ増加
ニ依リ蘇聯邦ノ外國貿易基調ハ數年前ト比較シ格段ノ相違ヲ示
シ對外支拂能力ハ著シク恢復シ來レリ一而シテ民間貯藏ノ金銀
モ現今ニテハ少ナカラス減少シタリト豫想セラレ

(二)

他方「ソウイェト」制度ノ鞏固安定ノ爲メニハ留債ノ對外的
將又對内的安定ヲ必須條件トシ從來ノ如キ留債ノ對外・對内償

在オデッサ日本領事館

他ノ開キハ留償ノ安定、延ヒテハ「ソ」政權ニ對スル信用ヲ高
 ムル所以ニ非ス斷固タル改革ヲ必要トセリ
 既ニ對外的信用ヲ確得セル蘇聯當局ハ昨年來切符制度ノ廢止、
 食料品、日用品ノ單一價格制度ノ施行、物資ノ増給、物價ノ可
 及的迅速ナル引下等々繼早ノ法令發布ニ依リ留償安定ノ對内的素
 地ヲ作ルコトニ努力セリ
 斯クテ紙留ト金留ノ開キハ最近漸次接近シ一時八十紙留ノ高値
 ヲ唱ヘタル金留モ最近ニテハ二十五紙留ニ下落シ（本令公布後
 ハ十五―十八紙留ニ下落セリ）國營・組合附店ノ増設、物資増
 給ニ依リ「トルグシン」ノ存在ハ殆ント無意味トナレリ
 以上ノ如ク對外的ニモ將又對内的ニモ改革素地ノ略具備セラル、ニ
 至レル今日留償安定ノ一策トシテ殆ント無意義ノ存在ト化セル「ト
 ルグシン」廢止ノ聲々出テタルハ當然ノコト、認メラル
 留償安定ノ徹底ヲ期スル爲メニハ將來國銀管理ノ下ニ外國送金解禁
 ニ進マサルヘカラサルモノナルモ早急ニ實現スルコトハ現狀ニ照シ

在オデッサ日本領事館

不可能ナルヘク之カ爲メニハ外國貿易ノ好調維持ト物資増給ニ伴フ
 一層ノ物價引下ヲ要スル次第ナリト認メラル
 右何等御參考迄報告申進ス

在オデッサ日本領事館

通商局

調査課

要務課

在浦潮日本總領事館

昭和十年十一月十九日

普通第二〇八號

昭和十年十一月十九日

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理 恵

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

外貨ニ依ル商業機關「トルグシン」ノ廢止ニ關スル件

本件ニ關シ本月十七日ノ當地赤旗紙ハ別紙譯文ノ如キ政府決定ヲ掲載セル處之カ各方面ニ及ホス影響異常ナルヘク被考ニ付追テ續報可及モ不取敢御參考迄茲ニ譯報申進ス
本信寫送付先 在「ソウワイエト」聯邦大使
在「ハバロフスク」總領事

在浦潮日本總領事館

別紙添附

昭和十年十一月廿六日接

全聯邦「トルグシン」聯合ノ廢止ニ關スル蘇聯邦人民委員會議決定、（一九三五年十一月十七日附赤旗紙）

蘇聯邦人民委員會議ハ左ノ如ク決定ス

一、一九三六年二月一日ヨリ全聯邦「トルグシン」聯合ヲ廢止シ其ノ所屬商店ヲ蘇聯邦國內商業人民委員部ヘ移管方ニ關スル同聯合ノ提議ヲ承認ス

二、全聯邦「トルグシン」聯合ニ對シ本決定公布ノ時ヨリ如何ナル「オペレーション」タルヲ問ハス記名式勘定傳票ノ發給ヲ廢止スヘキコトヲ提議ス但シ一九三五年十二月十五日迄ニ外國ヨリ送達セララル爲替送金ニ關スル「オペレーション」ヲ除ク、而シテ既ニ發給シタル記名式勘定傳票ノ商品トノ交換及外貨現金ニ依ル商業並「ヴァリユータ」ニ依ル借貸勘定ノ清算ニ關スル「オペレーション」ハ一九三六年二月一日迄之ヲ行フ、
三、全聯邦株式會社「イントリスト」ニ對シ左記各項ノ實施ヲ提議ス

在浦潮日本總領事館

E-0515

0069

(イ) 一九三六年一月一日以降蘇聯邦領域内ニ於テ外貨ニ依ル賣買及有ユル「サーヴィス」ハ其ノ種類ノ如何ニ不拘之ヲ停止スヘシ

(ロ) 外國ニ對シ當該國外貨ヲ以テ定メラレタル定額ニ依リ旅行「クイボン」ノ賣渡ヲ行フヘシ

(ハ) 蘇聯邦ヲ發シテ外國ニ向フ「ソヴィエト」航空機及船舶ニ對スル切符ノ販賣ハ「ソヴィエト」貨幣ニ依リテ行フヘシ

(ニ) 國際聯絡鐵道切符並蘇聯邦ヲ發シテ外國ニ向フ外國ノ船舶及航空機ニ對スル切符ノ賃金徴收ハ蘇聯邦領域ニ對シテハ「ソヴィエト」貨幣ヲ以テ蘇聯邦領外ノ全延長ニ對シテハ外貨ヲ以テ行フ

(ホ) 食堂車、停車場食堂ニ於ケル營業ハ總而「ソヴィエト」貨幣ニ依ル

四、蘇聯邦ニ於ケル觀光事業ノ發展ト外貨吸收ノ爲メ蘇聯邦國立銀行ニ對シ一九三六年度中外國爲替ニ依ルト國立銀行窓口ニ提示セラルル現金外貨ヲ以テスルトニ論ナク一佛法ニ付三十三哥三分ノ

在浦潮日本總領事館

一又ハ三佛法ニ付壹留トスル現行換算率ニ基キ外貨ヲ「チエルウオ」ニ交換スルコトヲ許可ス但シ他ノ外貨ニ付テハ右對法換算率ヲ基準トシテ計算スヘシ

五、國立銀行ハ必要數ノ交換所ヲ組織スヘシ

一九三五年十一月十四日莫斯科「クレームリン」ニ於テ

蘇聯邦人民委員會議長 「モロトフ」

在浦潮日本總領事館



7

普通第二六八號

昭和十年十一月十九日

在浦潮斯德
總領事 渡邊理意

外務大臣 廣田弘毅殿

外貨ニ依ル商業機關「トルグシン」ノ廢止ニ
關スル件

本件ニ關シ本月十七日ノ當地赤旗紙ハ別紙譯文ノ如キ政府決定ヲ揭
載セル處之カ各方面ニ及ホス影響異常ナルヘク校考ニ付道テ續報可
及モ不取敢御參考迄茲ニ譯報申進ス
本信寫送付先 在「ソゾイエト」聯邦大使
在「ハバロフスク」總領事

外務省

10. 10.

E-0515



全聯邦「トルグシ」聯合ノ廢止ニ關スル蘇聯邦人民
委員會議決定、（一九三五年十一月十七日附赤旗紙）

蘇聯邦人民委員會議ハ左ノ如ク決定ス

一、一九三六年二月一日ヨリ全聯邦「トルグシ」聯合ヲ廢止シ其
ノ所屬商店網ヲ蘇聯邦國內商業人民委員部ヘ移管方ニ關スル同聯
合ノ提議ヲ承認ス

二、全聯邦「トルグシ」聯合ニ對シ本決定公布ノ時ヨリ如何ナル
「オペレーシヨ」タルヲ問ハス記名式勘定傳票ノ發給ヲ廢止ス
ヘキコトヲ提議ス但シ一九三五年十二月十五日迄ニ外國ヨリ送達
セラルル爲替送金ニ關スル「オペレーシヨ」ヲ除ク、而シテ既
ニ發給シタル記名式勘定傳票ノ商品トノ交換及外貨現金ニ依ル商
業並「ツアリュータ」ニ依ル借方勘定ノ清算ニ關スル「オペレ
シヨ」ハ一九三六年二月一日迄之ヲ行フ、

三、全聯邦株式會社「イントリスト」ニ對シ左記各項ノ實施ヲ提議
ス

外務省

10. 10.

(イ) 一九三六年一月一日以降蘇聯邦領域内ニ於テ外貨ニ依ル賣買及
有ユル「サーツイス」ハ其ノ種類ノ如何ニ不拘之ヲ停止スヘシ
(ロ) 外國ニ對シ當該國外貨ヲ以テ定メラレタル定額ニ依リ旅行「ク
ーポン」ノ賣渡ヲ行フヘシ

(ハ) 蘇聯邦ヲ發シテ外國ニ向フ「ソヴィエト」航空機及船舶ニ對ス
ル切符ノ販賣ハ「ソヴィエト」貨幣ニ依リテ行フヘシ

(ニ) 國際聯絡鐵道切符並蘇聯邦ヲ發シテ外國ニ向フ外國ノ船舶及航
空機ニ對スル切符ノ賃金徵收ハ蘇聯邦領域ニ對シテハ「ソヴィ
エト」貨幣ヲ以テ蘇聯邦領外ノ全延長ニ對シテハ外貨ヲ以テ行
フ

(ホ) 食堂車、停車場食堂ニ於ケル營業ハ總而「ソヴィエト」貨幣ニ
依ル

四、蘇聯邦ニ於ケル觀光事業ノ發展ト外貨吸收ノ爲メ蘇聯邦國立銀
行ニ對シ一九三六年度中外國爲替ニ依ルト國立銀行窓口ニ提示セ

外務省

10. 10.

ラルル現金外貨ヲ以テスルトニ臨ナク一佛法ニ付三十三哥三分ノ
 一又ハ三佛法ニ付壹留トスル現行換算率ニ基キ外貨ヲ「チエルウ
 オートツ」ニ交換スルコトヲ許可ス但シ他ノ外貨ニ付テハ右對法
 換算率ヲ基準トシテ計算スヘシ
 五、國立銀行ハ必要數ノ交換所ヲ組織スヘシ
 一九三五年十一月十四日莫斯科「クレームリン」ニ於テ
 蘇聯邦人民委員會議長 「モイロトフ」

外務省

E-0515

0073

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|----------------|--|---------------------------|--|--|--|---|--|
| 文書課長 文書課發給 昭和拾陸年十月廿二日發送濟 淨書 正校(原稿) 昭和 年 月 日起草 別紙 計會 10.11.21 付受 | | 主 任 第一課 歐亞局長 歐一普通合 四五五四號 昭 和拾陸年十月廿二日 日附 附屬 | | 受 信 大藏省 智屋主計局長 農林省 原水産局長 商工省 小島銘山局長 | | 發 信 東郷 歐亞局長 | | 記 録 冬子 上 改 印 甘野 印 紙 | | 件 名 トルクメン 滯止及田探算率ニ関スルノ聯邦新決定通報ノ件 本件ニ關シ今般在莫斯科 大田大使ヨリ別紙寫ノ通報アリタルニ 付爲御參考右茲ニ送付ス | | 本信照合票挿入先 本信送付先 大藏省主計局長 農林省水産局長 商工省銘山局長 和十年十一月十六日附在 大 使 館 來 菲 電 第 九 七 九 號 寫 並 附 屬 書 寫 外 務 省 | |
|--|--|--|--|--|--|----------------|--|---------------------------|--|--|--|---|--|

E-0515

0075

1号 = 22.9 札
3
通 = 68.7 札

電信寫

其
十
月

大田外務大臣宛電報

第五七五號

大田大輔發

十月十四日「トルグシン」

「トルグシン」版止及留帳帳簿等ニ「スル決定公布セラレタル要時左ノ如シ

「來年二月一日以後「トルグシン」版及留帳帳簿ヲ廢止ス

「本法令發布ト同時ニ「トルグシン」ハ記名式前編通帳ノ發行ヲ停止ス但シ十二月十五日以前ニ「成定セル外國ヨリノ送金並ニ從前發行ノ通帳及外資現金」ニ依ル「商品」ノ取引ハ一月末限リトス

「國內「インツォーリスト」ノ外ニ引ヲ一月一日以後停止ス

一九三六年中「ゴスバンク」ニ依ル「外資交換率」ヲ一割ニ付三
編貸法トス

金融部發

十月十四日

木

木

木

木

歐亞局

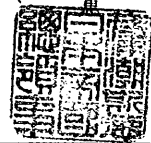
機密第二八〇號

昭和十年十一月二十八日

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理

外務大臣 廣田 弘毅 殿



昭和拾年三月四日 接受

(分類)

「トルグシン」廢止ノ影響ニ關スル件

一、本件ニ關シテハ本月十八日附普通第二六八號ヲ以テ不取敢及報告置キタル次第アルトコロ右「トルグシン」ノ廢止ニ關スル決定ニ亞キ軍部、内務人民委員部及「コーペラチヴ」等ノ諸機關ニ殘置セラレタル專屬買店ノ内國商業人民委員部ヘノ移管カ實施セラレ居リ從而内國商業組織ノ統一輩化カ本件決定ニ至レル直接ノ動機ナルヤニ觀セラル、モ本件決定後半「イントリスト」ニ關スル部分ヲ考察スレハ右カ本件決定ノ豫想計畫スル全部ニ非スシテ更ニ深キ目的ヲ

在浦潮日本總領事館

有スルモノタル可キヤ想像ニ難カラス

二、抑モ「トルグシン」カ設立セラレタル當時ノ事態ヲ考察スルニ、第一次五年計畫ニ於テハ生産用具ノ生産即チ換言スレハ諸産業開發ノ基礎タル可キ重工業ノ建設ニ主力カ傾注セラレタル次第ニシテ之カ爲元來カ農業國タル蘇聯邦トシテハ大戰ト之ニ續ケル革命戰ニ於テ國力疲弊シタルニモ鑑ミ其ノ計畫通り短期間ニ重要産業ヲ新ニ組織スルニ付技術ト資力トヲ外國ニ求メサルヲ得サリシモノナルモ建國ノ性質上資本主義國ノ財政的援助ヲ求ムルコト困難ナルモノアリタル關係モアリ旁々國家ノ有スル資源ヲ擧ケテ外貨ニ代ヘ外國ヨリ生産ニ必要ナル機械技術品等ヲ購入スルト共ニ、外國ノ技術家ヲ傭請スルノ已ムナカリシ次第ニシテ、國民全般ニ對シ最大限度ノ犠牲カ要求セラレタル理由亦茲ニ存シタルモノナルカ、右ハ總而食料品乃至重要物資ニ對スル廣汎ナル配給制度ノ採用ヲ招來シ延而國內重工業ノ設計建設運用等ニ從事スル技術家其他ノ在留外國人ニ對シ右配給機關外ニ於テ其ノ要求スル物資ヲ供給スル所謂對外人商業機

在浦潮日本總領事館

關「トルグシ」カ設立セラル、ニ至レルモノナリ
三、斯クノ如キ事態ニ於テ設立セラレタル「トルグシ」ニ於テ販
賣セラル、商品ノ代價カ金留ヲ標準トスル外貨ヲ以テセラレタルニ
付テハ素ヨリ外國人ノ手持外貨吸收以外ニ、國民ノ手ニ死藏セラル
ル金、銀、寶石ノ類ヲ自然的ニ吸收セントノ目的ニモ出テタルハ想
像ニ難カラサルトコロナリ

斯クテ一九三一年「トルグシ」ノ設立セラレテヨリ茲ニ四ケ年、
在任外國人ノ數ハ著シク減少シタルノミナラス國民ノ死藏スル貴金
屬類ハ大部分回收セラレ其ノ所期ノ目的ハ略々達成セラレタルモノ
ト見做シ得可キトコロ他面蘇聯邦ニ於ケル計畫經濟ハ漸ク整備セラ
レ、國民ノ需要ヲ充足スヘキ消費工業モ曲リナリニモ其ノ製品ヲ市
場ニ供給シ得ル域ニ到達シ從而內國商業部ハ本春以來國內商業網ノ
統一ニ努力シ先ツ配給制度ヲ廢止シ、配給制度ノ副産物トシテ發生シ
タル所謂「ザクルイトイ、ラスブレデリ、テリ」即チ各種機關ノ專屬
賣店ノ漸次的內國商業部ヘノ移管ヲ實施シ以テ二重物價ノ消滅ト物

在浦潮日本總領事館

資ノ正常ナル流動ヲ助長シ來レル次第ナルカ如斯內國商業組織ノ改
善ハ「トルグシ」ノ存在ヲ單ナル缺乏商品配給上ノ安全辦トシテ
ノミ意義アラシムルモノニシテ、一國ノ体面ヲモ顧ミスシテ其ノ國
内ニ少數外貨吸收ノ目的ノ爲ニ膨大ナル特種ノ機關ヲ設ケテ、外貨
ヲ以テ物資ノ配給ニ任セシム可キ必要ナル可キハ察スルニ難カラ
ス、況ンヤ「トルグシ」カ其特種ノ性能上商業機關トシテ過重ノ
人員ヲ擁シテ漸ク收支相償ハス經營難ニ陥リ居ルヤノ噂アルニ於テ
ヲヤ

此ノ故ニ蘇聯邦內國商業ノ觀點ヨリ見レハ、自國內ニ在任スル外國
人ニ對スル物資ノ供給上差別的ニ設ケラレタル特種ノ機關タル「ト
ルグシ」ハ國民ノ手持貴金屬吸收ノ便宜的手段ヲ兼ネタリトハ云
ヘ或時期到來セハ早晚廢止セラレ可キモノタリシヤ勿論ニシテ、物
資ノ供給圓滑ナラサル現狀ニ於テ或種ノ調節的價值ハ之ヲ有スヘキ
モ蘇聯邦內普邊ノ機關ニ非ルカ故ニ、其ノ調節的性能モ極メテ限局
セラレタル範圍ニ止マリ從而之カ廢止カ配給上重大ナル支障タリ得

在浦潮日本總領事館

ヘカラサルノミナラス、從來稍モスレハ住民ノ「スベキユレーショ
ン」ヲ助長スル傾向強カリシニモ鑑ミ其ノ禍根ヲ除去スル意味ニ於
テモ、當然實施セラル可キモノタリシナリ
四、而シテ本件決定後半ニ於テ、蘇聯邦ニ來遊スル外國人旅行者並
蘇聯邦通過旅客ニ對シ外貨ヲ以テ案内其他諸般ノ事務ヲ取扱フ機關
タル「イントリスト」關係ニ付規定セラレ居ルトコロ右規定ニ於テ
注目スヘキハ(イ)蘇聯邦貨幣ヲ以テ外貨ニ代ヘタルコト(ロ)蘇聯邦留貨
ノ對外交換率ノ定メラレタルコトノ二點ナリ
抑モ「イントリスト」カ外貨ヲ以テ「ツーリスト」事務ヲ開始シタ
ルハ、蘇聯邦貨幣カ國際通貨ニ非ル結果旅行者ノ蒙ムル不便不利ヲ
除去スルカ爲ニシテ、今回外貨ヲ廢シテ、自國通貨ヲ以テ一切ノ「
ツーリスト」事務ヲ取扱ハシメ其ノ對外交換率ヲ一九三六年度中一
留對三佛法ト定メラレタルニ付テハ蘇聯邦通貨ヲシテ、將來國際通
貨タラシムル前提ナリト觀察スル向キアリ、右ハ俄ニ斷定シ得サル
可キモ近ク俸給(三割)、物價(四割)ノ引下カ行ハル可シトノ風説

在浦潮日本總領事館

アリ且所謂「スタハイノフ」運動ヲ各方面ニ獎勵シテ各企業ノ能率
増進、企業採算ノ確立ニ努力シツ、アルニモ鑑ミ尠クトモ蘇聯邦政
府カ留貨ノ安定ヲ企圖シ居ルハ想像シ得サルニ非ス、當地ニ於ケル
外國人間ノ觀察ニ依レハ或時機ニ於テ「デヴァリユエーション」カ
行ハル、モノト豫想セラレ居レリ
五、然ラハ「トルグシン」ノ廢止並「イントリスト」關係ニ於ケル
留貨ノ登場及留貨ノ對外交換率ノ發表カ如何ナル影響ヲ有ス可キ
ヤト云フニ、「トルグシン」ニ關シテハ既述ノ通り其ノ廢止カ必至
ノモノタリシニ鑑ミ單ニ、一部缺乏商品配給上些少ノ支障ヲ有スヘ
キモ「スベキユレーション」ノ餘地ヲ尠ナカラシメ(尤モ物資ノ供
給圓滑ナラサル現狀ニ於テハ「トルグシン」ノ廢止後ト雖モ之ヲ根絶
スルコトハ困難ナル可シ)得可キノミナラス從來「トルグシン」以
外ニ於テ販賣セサリシ物品モ內國商業部機關ヲ通シテ入手シ得ルコ
ト、モナラハ一般市民ニハ寧ロ歡迎セラル可シト雖モ在留外國人ニ
トリテハ、殊ニ當地ノ如ク國境地帯ニアリテハ、從來「トルグシン

在浦潮日本總領事館

2/28
B
4/15

一ノ存在ニ依リテ其ノ所持ヲ「カモンラージ」シ得可カリシ外貨ニ
新客年三月五日附機密第五八號報告ノ稅關規則ニ抵觸シ易クナル可
キノミナラス暗黒市場ニ於ケル蘇貨「チエルヴオーネツ」ノ交換困
難且割高トナリ從而從來留安ノ爲比較的安價ナリシ生活力割高トナ
リ來ル可キハ脱カレサルトコロトスヘク一部外人（在留邦人並支那
人）等ニハ相當影響アル可シト豫想セララル
而シテ「イントリスト」關係ニ付テハ外國ニ於テ「クイボン」式切
符ヲ發賣スルコト、ナル可キニ付外國旅行者ニトリテハ從來ノ金留
換算率ニ依ル場合ニ比シ割安トナルモノト想像セララル、モ蘇聯邦内
ニ於ケル汽車賃等ノ改正等モ豫想セラレサルニ非サルニ付尙考究ヲ
要スルモノト思考セララル
右當地ニ於ケル觀察トシテ不取收報告申進ス
本信寫送付先 在「ソヴイエト」聯邦大使
在「ハバロフスク」總領事

在浦潮日本總領事館

E-0515

0000

久子天皇御年

昭和拾年十月廿八日 接受

外務部 第九九〇號

昭和十年十一月十八日

福井縣知事 近藤 駿 介



内務大臣後藤 藤次郎殿
外務大臣廣田 弘毅殿
指定各府存貯長官殿
在哈内務事務官殿

蘇聯邦人民委員會議ノ布告ヲナス

十月十六日付ノラマノエ、ズナリニ紙所載

蘇聯邦人民委員會議ノ國內産業ノ發達ニ伴フ通

貨ノ安定ヲ名目トシテ外貨吸收ヲ目的トシテ米及レク關設

布リレトトルゲンレハ外貨ヲ以テ取引スル店舗ヲ本年限リ

廢止スルノ決議カシシ之ヲ發表スル等之ヲ譯文化記ノ通リ有

旨及申(通)報候也

記

トルゲンレノ廢止ニ就テ蘇聯邦
人民委員會議ノ布告ニ依

蘇聯邦人民委員會議ハ此ノ布告ヲナス

一全聯邦「トルゲンレ」聯盟ノ提案ニ係ル一九三〇年二月一日

以後「トルゲンレ」ヲ廢止シレノ所屬スル商取引網ヲ蘇聯邦

内閣・商業大臣委員部ニ委譲スルノ件ヲ是認スル

二全聯邦「トルゲンレ」聯盟ニ對シ、本布告ノ發布以後一九三五

年十月十五日迄ニ廢取ルベキ外國「トルゲンレ」ノ為替取引ヲ除キ一切ノ

取引上ノ記者化切帳ノ交付ヲ中止スルコトヲ提議スル

E-0515



通商局

調査部

分類E2.1.01

歌留局

普通公第一六一號

昭和十年十二月十五日

在ハバロフスク

總領事 島田正 謹



外務大臣 廣田 弘毅 殿

「トルグシン」商店廢止ニ關スル件

本年九月二十九日附「ソヴィエト」聯邦消費組合改革令ニ伴フ當地
方各種消費組合店舗ノ國營商業系統ヘノ移管狀況ニ關シテハ既報ノ
通（十一月二十日附機密公第一五〇號拙信參照）ナル處其ノ後新聞
所報ニ依レハ當市中央労働者「コオペラチーヴ」（小賣商店二五）
ハ移管ヲ了シ目下殘務整理ヲ行ヒツツアル趣ナリ而シテ右決定ニ相
亞キ十一月十四日附國營商店「トルグシン」廢止ニ關スル決定發表

在ハバロフスク日本總領事館

昭和十年十二月七日

セラレ（十一月二十一日附普通第二六八號及十二月一日附機密第二
〇七號在浦潮總領事發貴大臣宛報告參照）引續ク商業制度ノ改革ハ
世人ノ耳目ヲ導メシメ如レル處右ノ内「ト」商店ノ廢止ハ單ニ聯邦
内在留外國人ニ止マラス内國人ニ對シテモ相當影響スルモノアルカ
如ク認メラル依テ右「ト」商店ノ廢止ニ至リタル事情及閉鎖狀況等
ニ關シ左ニ若干ノ考察ヲ試ミムトス

「トルグシン」ノ設立
抑々「トルグシン」ハ一九三二年末「ソ」聯邦在留外國人ノ商業
機關トシテ旁々國民ヨリ其ノ手持ノ金銀外國貨等吸收ノ目的ヲ以
テ設立セラレタル臨時的施設ニルカ同年末ヲ以テ終了シタル第一
次五ヶ年計畫ハ重點ヲ重工業ニ置キ之カ實施現上外國ヨリノ工業
機械輸入、技術家招聘ノ爲且ハ國防充實ノ爲ニ支拂ハル可キ莫大
ナル資金獲得ノ爲他ノ産業及國民生活ヲ犠牲トシ替サヘ不足勝ナ
ル農産物及輕工業品ヲ國外ニ「ダンピング」シ以テ外貨ヲ入手セ
ムトシタルヲ以テ日常必需品ノ缺乏ハ勿論全國的食糧難ニ直面シ

在ハバロフスク日本總領事館

タリ茲ニ於テ生活物資ノ供給不足ヲ救フ爲配給切符制度ノ實施トナリ特ニ在留外國人乃至經濟建設ニ從事セル一部技術家ニ對シテハ別ニ金留建ノ獨自ノ商業機關「トルクシン」ヲ設立スルニ至レリ爾來同店ニ於テハ他商店ニ見受ケラレサル外國品雜貨、資澤品其ノ他國民ノ購買慾ヲ唆ルウ如キモノヲ販賣シ又同店ノ一角ニハ貴金屬買入所ヲ設立シ國民ノ手中ニ在ル貴金屬及外貨ヲ回收シ之ト引換ニ同店ノ購買券ヲ發給セリ

「トルクシン」廢止ニ至リタル事情
前述セル如ク「トルクシン」設立ノ眞ノ目的ハ外貨並金銀貨吸收ノ一時的便法ニ在リタルカ設立後茲ニ三ヶ年其ノ間同商店ノ發給スル購買券ハ物資極度ニ缺乏ヲ告ケタル設立當初ニ於テ投機ノ目的ニ使用サレタル弊害ハアリタルモ大体ニ於テ所期ノ目的ヲ達スルコトヲ得加フルニ最近國內ノ產金増加（昨年度ニ比シ二四%ヲ増大セリト謂フ）ニ伴ヒ金準備モ激増シタル趣ニテ「トルクシン」ノ役割モ減殺セラレタル一方「ソヴイエト」經濟ハ兎モ角日ニ月

在ハバロフスク日本總領事館

ニ統制化サレルニ至リ本年一月一日以降麵麩其ノ他重要穀類ノ切符制度ヲ廢止シ單一國定相價格ニ依リ販賣スルコトナリタルカ次イテ本年九月二十五日附決定ヲ以テ麵麩値段ノ引下ト共ニ主要食料ニ對スル切符制度モ廢止セラレ着々其ノ成果ヲ收メ居レリ斯クノ如キ事態ニ於テ一時的ノ手段トシテ設立セラレタル「トルクシン」ノ演スル役割ハ寡少トナリタルノミナラス其ノ存置ハ徒ニ投機ノ機會ヲ與フルト共ニ少數者ノ爲ニ斯ル機關ヲ存置スルコトハ收支相償ハス其ノ犠牲大ナルモノアリト言フ可ク右廢止ハ必然ノ運命ト看ルヲ得ヘシ

廢止ノ途中ニ在ル「トルクシン」ノ現狀
當市「トルクシン」商店ハ他地方ノ同商店ニ比スレハ極メテ小規模ナルモ今次「トルクシン」ノ廢止ニ關スル決定公布セラレルヤ其ノ購買券所有者ハ狼狽周章シ店頭ニ殺到シ正ニ銀行取付騒キヲ演シ店舗内ハ約十日ニシテ殆ト空虚トナリ爾來少量宛浦潮コリノ仕入商品ヲ以テ補充シ居レルカ此ノ間日々商品値段ノ引上ヲ強行

在ハバロフスク日本總領事館



シ居レリ消息通ノ際ニ依レハ物價ハ「ト」商店閉鎖迄ニ繰上リニ
 項騰セシメ同商店設立當時ノ法外ナル値段ニ逆戻リセシメ當館同
 店ノ發行ナル購買券ヲ閉店迄ニ無理遣リニ回收セムトスル根柢ナ
 リト謂フ（同店ハ一、三、五、二、一、百迄ニ使用セサル購買券ハ無
 效ナル旨廣告セリ）斯クテ一部露人（仄聞スル所ニ依レハ主トシ
 テ「コムソネーリスク」建設技師、技術者、「ピロビツヂヤン」
 移民及魯北鐵從業員ナルカ如シ）中ニハ尙多額ノ購買券ヲ所持シ
 居ル者存マカ如キセ買フニ品々入同店ノ不信ヲ啣チツツモ空
 シク入荷ヲ待チ居レリト云フ

參考ノ爲値段吊上ノ狀ヲ摘示スレハ左ノ如シ

| | | |
|------------|-----|-----|
| 米（一貯） | 舊値段 | 新値段 |
| 無鹽「バタ」（一貯） | 一八哥 | 二九哥 |
| 鹽「バタ」（同） | 六五哥 | 八四哥 |
| 腸詰（同） | 三五哥 | 四八哥 |
| | 七〇哥 | 九〇哥 |

在ハバロフスク日本總領事館

「ウオツカ」（一本） 一八哥 三〇哥
 酒精（同） 五〇哥 六〇哥
 板「チヨコレト」（一枚） 二〇哥 四五哥
 ヘレー帽 一留 三哥七五哥
 女毛靴下 八五哥 一留二〇哥
 着地類 二五%乃至五〇%ノ昂騰
 畜音機（ソウイェト製） 一九留 三八留
 婦人用毛皮外套 三五留 四九留

（目代書記生調書）

右報告ス

本信寫送付先
 在蘇聯邦大使
 在浦潮總領事

在ハバロフスク日本總領事館

取願局

公第二二六號

昭和十年十二月十九日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿



「トルグシン」閉鎖及外貨取引廢止ノ法令發布セラル、ヤ當地「ト

ルグシン」ハ未曾有ノ盛況ヲ呈シ最初數日間ハ一日十五、六萬留ノ

費上アリタリトノコトナリ漸ク一ヶ月後ノ今日ニ於テ商品ハ殆ント

販賣シ盡サレタル如キ觀アリ右ハ外國ヨリ送金ヲ受クル者カ來年二

月一日以降之ヲ使用シ得サル爲メ必要、不必要ヲ問ハス手當リ次第

ニ物資ト交換スル爲ト、留貨平價切下ケ早晚實施セラレ現今ノ一留

八十哥若クハ夫以下ニ低下スルナラントノ流曾盛ニ行ハル、カ爲

我機師連ハ凡ユル方法ヲ講シ「トルグシン」ノ物資ヲ購入シ數倍

在オデッサ日本領事館

本信照合要挿入先

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 西 | 1 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| 門 | | | | | |
| 類 | | | | | |
| 項 | | | | | |
| 目 | | | | | |
| 一 | | | | | |
| 號 | | | | | |

2.1.0.1

件
子
育
學
政
第

昭和十年十二月十九日

E-0515



高キ價格ヲ以テ他ニ轉賣セントスルカ爲メナリ尤モ當地ハ猶太人多
キ爲メ斯ノ如キ流言及投機他地方ヨリモ一層強キハ有得ヘキコトナ
ルヘシ
既ニ富市ニ於テモ此等投機師連ニシテ當局ニ發覺セラレ逮捕セラレ
タル者ノ氏名日々新聞ニ發表セラレ居レリ
何レニシテモ「トルグシン」閉鎖及外貨取引廢止法令並ニ留貨平債
切下説カ如何ニ大ナル影響ヲ與ヘタルカラ如實ニ證スルモノト認メ
ラル

本信爲送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

分類 E 2.1.0.1)

歌
局

公機密第三〇號

昭和十一年一月十四日

在間島
總領事 永井

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十一年一月十四日機密第三七號寫送附

在滿大使 宛

「在浦鹽「トロクシン」(外貨賣買商店)ノ解消狀況ニ關スル件

昭和十一年一月十四日

昭和十一年一月廿日 接受
附屬添付

清

在間島日本總領事館

E-0515

0090

寫

機密第三七號

昭和十一年一月十四日

在間島
總領事 永井清

在滿洲國
特命全權大使 南次郎 殿

在浦鹽「トロクシン」(外貨賣買商店)ノ
狀況ニ關スル件

(璋春分館警察署長報告要旨)

本件ニ關シ在浦鹽A課者ノ提報ニ據レハ一九三五年十一月十四日
在「モースコ」「クレムリン」ニ於ケル全同盟中央執行委員會ノ決
定指令ニ因リ全國內ニ於ケル「トロクシン」ハ一律ニ本年一月一

日ヨリ解消スルコトナリ之レニ基キ在浦鹽「キタイスカヤ街」及
「レーニンスカヤ街」角ノ「トロクシキン」モ一月一日附解消シタ
ル趣ナルカ其ノ決定内容左記ノ通

記

全國「トロクシン」解消ニ對スル「CCCP」人民委員「ソヅエー
ト」決定ノ要旨關係各内務人民委員會ハ一九三五年十二月廿五日迄
「トロクシン」ニ於ケル一切ノ書類及現品ノ検査ヲ行レ之レヲ一九
三六年一月迄ニ内務人民委員會ニ屬スル國營共利社ニ移管セシムル
ト共ニ從來ニ於ケル「トロクシン」ヲ同日附解消セシメ二月一日ヨ
リ移管ヲ受ケタル共利社ニ於テ從前ノ「トロクシン」代用事業ヲ次
ノ條項ニヨリ實行スヘシ

一、各自國ノ證明書ヲ有スル外國人ニ對シテハ充分ナル検査ヲ行ヒ再ヒ所轄内務人民委員部(ゲベウ)ニ於テ證明書ヲ發給シ之ニ基キ共利社ニ於テ外貨ノ賣買ヲ爲スヘシ

二、從來「トロクシン」ニ於ケル外國貨幣交換ハ一九三六年二月一日ヨリ各國立銀行ニ於テ之レヲ爲スヘシ

三、各外國貨幣換算率ハ佛蘭西貨幣ヲ本位トシ一法ニ對シ三十三ノ(33 1/2 Kopek)ニ換算スヘシ

一九三五年十二月十四日

在モースコクレモリ

CCCP人民委員會長 モロトフ
同 書記 ミロスニコフ

本信寫送附先

外務大臣 哈爾賓、齊々哈爾、滿洲里、綏芬河
各總領事、領事
延吉憲兵隊長 綏妻海軍駐在員
管下(琿春、黑、哈、馬、百、涼、汪、三營)
一般

歐亞局

公第二〇號

昭和十一年一月十九日

在武市

頭取代理 下 村 未 郎



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

「トルクシン」後ニ「タリ・トルク」
閉店ノ件

當地「トルクシン」ハ「トルクシン」閉鎖ニ關スル決定公布後「ト
ルグシン」兩業ハ一月一日限り停止スヘキ旨新聞紙上ニ發售シ他
方ヨリ一箇月早く「トルグ」兩業ヲ停止シ閉鎖セラレタリタル處本月十五
日ヨリ「タリ・トルグ」一トシテ「古」新來ノ「ウニベル・マク」

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

昭和十一年貳月拾七日接受

手書きの署名

「ウヌ・トルク」ハ「ピンチエ・トルグ」
様租悉ナル懸隔品ノ取付ヲ開始セリ
右報告ス

本官局送付 在蘇大使

在官府認領

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

E-0515

0093

О Снижении Железнодорожного Брахта до Первоначального
Уровня и О Применении Льготного Тарифа за Электрическую
Энергию.

г.ОТА: Кстати у меня имеется одно дело, по поводу которого я
вынужден обратиться к Вам. По имеющимся у некоторых
членов дипкорпуса сведениям, грузовой железнодорожный
тариф, по которому оплачиваются грузы дипкорпуса при сле-
довании по жел.дорогам СССР, повышен с ноября прошлого
года. Некоторые об"ясняют это обстоятельство тем что до
ноября с грузов дипкорпуса взималась провозная плата по
тарифам установленным для грузов кооперативных организа-
ций, а с ноября эта практика была отменена, в результате
чего стоимость брахта сильно повысилась. Нельзя-ли про-
сить Вас рассмотреть этот вопрос и разрешить его в поло-
жительном для дипкорпуса смысле.

Также говорят что плата за электрическую энергию
тоже повышена. В связи с этим мне передают что некоторые
посольства пользуются скидкой в размере 17%, другие - 15%.
Было-бы желательно, что-бы эта льгота была распространена
на всех членов дипкорпуса в равной мере, однако, я прошу
Вас распорядиться таким образом чтобы интересы посольств
уже пользующихся максимальной скидкой не пострадали.

г.КРЕСТ.: Я полагаю, что если эти замечания верны - то это имело
место по коммерческим соображениям: скидка была сде-
лана для потребителей значительного количества энергии.

г.ОТА: В отношении количества потребляемой энергии, как
мне кажется, Японское Посольство стоит на первом
месте. Все-же я прошу Вас распорядиться таким
образом, чтобы льготный тариф был распространен
одинаково на все посольства и миссии.

г.КРЕСТ.: Хорошо, я передам тов. Баркову.

\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$\$

Я полагаю что через несколько дней смогу Вам ответить, предварительно снесясь с компетентными властями - но думаю что ответ будет отрицательным, ибо параллельное существование двух цен - одних для сов. граждан и других для иностранцев - недопустимо.

г.ОТА: Моя ссылка на существующие цены была вызвана желанием продемонстрировать Вам то действительно тяжелое положение в которое оказался поставленным дип.корпус в результате столь разительной перемены, и каким бременем на членов дип.корпуса ложатся подобные цены. Если-бы такое положение создалось по естественному ходу вещей, это было бы одним делом - но оно создалось вследствие резкой перемены и неожиданно назначенного курса три франка за рубль. По - этому я прошу Вас выработать какой нибудь модус для облегчения положения дип.корпуса, признав что положение это в самом деле тяжелое. В качестве одного из возможных способов, дипкорпус считает наиболее целесообразным сохранить один из магазинов Торгсина, но если существует какой нибудь другой путь - то было бы еще лучше. Если возможность положительного разрешения этого вопроса категорически исключается - конечно, ничего не поделаешь. Но я думаю что это соответствовало-бы международным обычаям, если-бы Сов. пр-во рассмотрело этот вопрос с дружественной точки зрения и в интересах аккредитованного при нем дипломати-

ческого корпуса.

г.КРЕСТ: Я полагал бы что последнюю часть только-что сделанного Вами заявления было-бы лучше, пожалуй, не передавать компетентным властям, дабы не создавать впечатления что Сов. пр-во лишено права принимать те или иные решения революционным, т.е. произвольным, путем, и о необходимости, в интересах иностранцев, принимать их эволюционным путем. Это может оставить представление о ненужном вмешательстве.

г.ОТА: Мне безразлично, я только прошу Вас не передавать мое заявление в смысле какого-либо "вмешательства" и рассмотреть его сочувственно в интересах дип.корпуса, приняв во внимание что кроме Вас ему не к кому обратиться за помощью.

г.КРЕСТ.: Конечно я постараюсь передать Ваше заявление так чтобы не получилось какого-нибудь недоразумения, но со своей стороны, я хочу лишь подчеркнуть, что я не обязан солидаризироваться с Вашим мнением, так как оно противоречит основам Советской хозяйственной политики. Я передам компетентным властям Ваши пожелания, объективно и беспристрастно, но я не в состоянии взять на себя обязательство поддерживать их перед ними.

г.ОТА: Таким образом беседу нашу можно считать законченной и мне остается только просить Вас рассмотреть это дело сочувственно.

г.ОТА: Конечно, со своей точки зрения, Вы может быть и правы. Но тяжелое положение в котором очутился дипкорпус, тем не менее остается фактом. В наши намерения не входит вмешательство в финансовые мероприятия Сов.Правительства, которые, естественно, являются его внутренним делом, однако столь быстрая перемена положения не могла не вызвать удивления и затруднений в среде дип. корпуса. Поэтому мы просим, в виде исключительной меры, сохранить торговлю на прежних условиях, в сокращенном виде, впредь до выравнивания цен, что по мнению дипкорпуса, и моему лично, возможно. Така как, я думаю, что с точки зрения международных отношений, облегчение жизни иностранных миссий, является скорее положительным фактором, то не могли-бы Вы, благожелательно рассмотрев пожелания дипкорпуса, снестись с компетентными властями и поддержать его ходатайство.

г.КРЕСТ.: Я еще раз повторяю что не могу Вам дать ответа на этот вопрос сейчас. Я передам пожелания дип.корпуса компетентным властям, хотя я уверен в их отрицательном ответе. В противном случае это было бы противоречием. Я прошу дипкорпус, в Вашем лице, не питать надежды на какое-либо изменение политики Сов. Правительства. По моему мнению это вообще говоря маленький вопрос, который не может отразиться на международных отношениях.

г.ОТА: Вы говорите что это мероприятие не причиняет затруднений дип. корпусу и что вопрос этот по существу маленький вопрос - но на деле, члены дип. корпуса испытывают в связи с ним серьезные затруднения в своей личной жизни и просьба дип. корпуса заключается в том чтобы сов. пр-во приняло во внимание это обстоятельство. По наведенным мною справкам цены на предметы первой необходимости, если исходить из установленного курса три франка за рубль, колоссально превышают цены на розничных рынках заграничей, например, кило масла стоит 30 франков, литр молока 10 франков, свинина 48 франков, сахар 13 франков, хлеб I шт. 7-70 франков, огурец I шт. 10-50 франков, яйцо - I-70 франков, и т.д. - из этого видно со всей ясностью что положение дипломатического корпуса при подобных ценах действительно весьма весьма затруднительно, поэтому дип.корпус просит разрешить этот вопрос эволюционным путем, в дружественном духе и с человеческой точки зрения.

г.КРЕСТ: Ссылка на существующие цены, сделанная г.Послом, не достигает цели, потому что цены не вскду одинаковы; существует большая разница между ценами в Токио и США, между ценами в Болгарии и в Лондоне, но никто об этом вопроса не поднимает. Если заграничей цены выгоднее чем в Москве - пожалуйста, выписывайте, я не возражаю. Нельзя просить снизить цены на том основании что заграничей они ниже.

г.ОГА: В среде дипкорпуса, главы Посольств и Миссий еще может быть могут мириться с создавшимся положением, но секретари и атташе испытывают значительные затруднения. Торговлю такими товарами как мясо, овощи и иные скоропортящиеся продукты, также как зимой дрова и уголь, газолин - товары, которые до сих пор всегда приобретались на месте, на иностранную валюту, желательно было-бы, по мнению дипкорпуса, сохранить на прежних условиях, с оплатой наличной валютой или чеками на иностранные банки. Такое пожелание дипкорпуса, по моему мнению, не является чрезмерным, как Вы думаете? Конечно разрешение этого вопроса является внутренним делом Советского Союза и дип. корпус далек от мысли настаивать на нем как на своем праве. Однако во всех странах принято, как обычай, оказывать дипкорпусу облегчение и содействие; если у Сов. Правительства имеется подобное-же намерение - было-бы желательно видеть его осуществленным. Я одновременно говорил о журналистах и деловых людях лишь потому что указанный мною способ приобретения товаров является и для них наиболее удобным. С узко-юридической точки зрения Вы конечно правы говоря о качестве старшины дип. корпуса, но я пришел к Вам не для дискуссии, а чтобы изложить Вам обстоятельства в которые поставлен дип.корпус, с просьбой эти обстоятельства учесть, тем более что ведь не возникает вопроса о сохранении тех широких масштабов, в которых до сих пор функционировал Торгсин, речь идет лишь о предоставлении хотя бы минимальной возможности приобретать указанные мною товары на прежних условиях.

г.КРЕСТ.: Вопрос о торговле на иностранную валюту не лежит в сфере компетенции Народного Комиссариата по Иностран. Дела, а находится в ведении Народн.Комиссариата Внутренней Торговли. Однако, будучи хорошо знаком с хозяйственной политикой Советского Правительства, я заранее могу сказать, что удовлетворить эти пожелания дипкорпуса будет невозможно. Вскду торговля производится на свою валюту, и нигде нет параллельного хождения своей и иностранных валют. Ческолько лет тому назад Сов. пр-во допустило параллельную торговлю на иностран. валюту в магазинах Торгсина. Такое явление, конечно, является ненормальным с точки зрения укрепления денежной системы, что хорошо известно и Вам, г.Посол. Поэтому Сов. пр-во решило это ненормальное положение ликвидировать. Это есть мера связанная с народным хозяйством и укреплением денежной системы, а потому из нее не может быть исключений, почему я и думаю что ответ органов, ведающих народным хозяйством, будет отрицательным. Сов.пр-во помню прага беспощинного глова дипкорпусом тогаров из-загранины, о чем я уже говорил, установило также и льготный курс З.Гранка за рубль, для удешевления снабжения дровами и углем. Поэтому не может возникнуть подозрения того, что Сов. пр-во не учитывает положения дипломатического корпуса.

один формальный момент. Вопрос о журналистах и деловых людях является не интернациональным вопросом, а вопросом национальным, а потому он стоит особняком и не подлежит обсуждению в связи с положением дипкорпуса. Проводимая ликвидация "ТОРГСИНА" является внутренней мерой Советского Правительства в целях укрепления денежной системы, а потому установление каких-либо исключений, хотя-бы и для дипкорпуса, не представляется возможным. Тем более что дипкорпус терпит незначительный убыток от этого, ибо ему широко предоставляется возможность выписывать беспошлинно продукты и товары широкого потребления не только из своих стран, но и любого пункта заграничей. Три года тому назад, когда был закрыт "ИЧСНАБ", дипкорпус возбудил вопрос о беспошлинном ввозе товаров, что и практиковалось все время и закупки дипкорпуса в Торгсине были весьма невелики. Ввиду этого, я не думаю что условия, в которые поставлен дипкорпус указанной мерой, являются невыносимыми, так как вместо покупки товаров на сов. валюту мы предоставляем дипкорпусу полную возможность выписывать нужные ему товары из-загранич.

один формальный момент. Вопрос о журналистах и деловых людях является не интернациональным вопросом, а вопросом национальным, а потому он стоит особняком и не подлежит обсуждению в связи с положением дипкорпуса. Проводимая ликвидация "ТОРГСИНА" является внутренней мерой Советского Правительства в целях укрепления денежной системы, а потому установление каких-либо исключений, хотя-бы и для дипкорпуса, не представляется возможным. Тем более что дипкорпус терпит незначительный убыток от этого, ибо ему широко предоставляется возможность выписывать беспошлинно продукты и товары широкого потребления не только из своих стран, но и любого пункта заграничей. Три года тому назад, когда был закрыт "ИЧСНАБ", дипкорпус возбудил вопрос о беспошлинном ввозе товаров, что и практиковалось все время и закупки дипкорпуса в Торгсине были весьма невелики. Ввиду этого, я не думаю что условия, в которые поставлен дипкорпус указанной мерой, являются невыносимыми, так как вместо покупки товаров на сов. валюту мы предоставляем дипкорпусу полную возможность выписывать нужные ему товары из-загранич.

Составлено по личным материалам для частных нужд

СОКРАЩЕННАЯ ЗАПИСЬ БЕСЕДЫ ПОСЛА ЯПОНИИ г. ТАМЕКИЧИ ОТА, СТАРШИН
ДИПЛОМАТИЧЕСКОГО КОРПУСА г. МОСКВЫ, С г. Н. КРЕСТИНСКИМ, ВРИО.
НАРОДНОГО КОМИССАРА ПО ИНОСТРАННЫМ ДЕЛАМ СОЮЗА С.С.Р., ИМЕВШЕЙ
МЕСТО 25 ЯНВАРЯ 1936 ГОДА, С 4-х ПО 6 ЧАСОВ ПОПОЛУДНИ.

О Сохранении для Дипкорпуса Специального Магазина

ТОРГСИНА

г. ОТА: "Сегодня я обращаюсь к Вам в качестве старшины дипкорпуса
Москвы. Вам вероятно известно от г. Баркова, также как и от
других лиц, стоящих близко к дипкорпусу, о том волнении
которое происходит в среде дипкорпуса в связи с ликвида-
цией "Торгсина". При новом положении, когда необходимые
продукты и товары должны будут приобретаться по курсу три
франка за рубль - положение дипкорпуса, а в особенности
положение секретарей, консулов, журналистов, служащих и
деловых людей - становится весьма затруднительным. Нельзя
ли попросить Вас изыскать какой-нибудь способ облегчения
этого трудного положения, принимая во внимание, что я го-
ворю от имени всего корпуса, условия жизни которого, как
и Вы сами прекрасно понимаете, конечно становятся очень
тяжелыми.

г. КРЕСТ.: Поскольку г. Посол обратился сегодня ко мне в качестве
Старшины дипкорпуса, я прежде всего должен указать на

陸軍省

昭和十一年二月二十八日

昭和十一年二月二十八日

軍務局

通稱代紙 下 封 天 那

外務大臣 海軍大臣 陸軍大臣

関東地方ニ於ケル日用品の需品
販賣促進ノ爲ニシテ

今回関東地方執行委員ノ建議ヲ得テ在來ノ関東地方商賣組合「タ
リ・トルク」一「ビシヤエ・トルク」及「山前商賣組合」デ、ウエ・カ
・トルク一「山前商賣組合」ニシテ一セラレ進方「トルク」一「ハ
バロフスク」一「山前商賣組合」一「トルク」一「ウラチウオストツク・トルク」一「トナ

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

E2.1.0.1

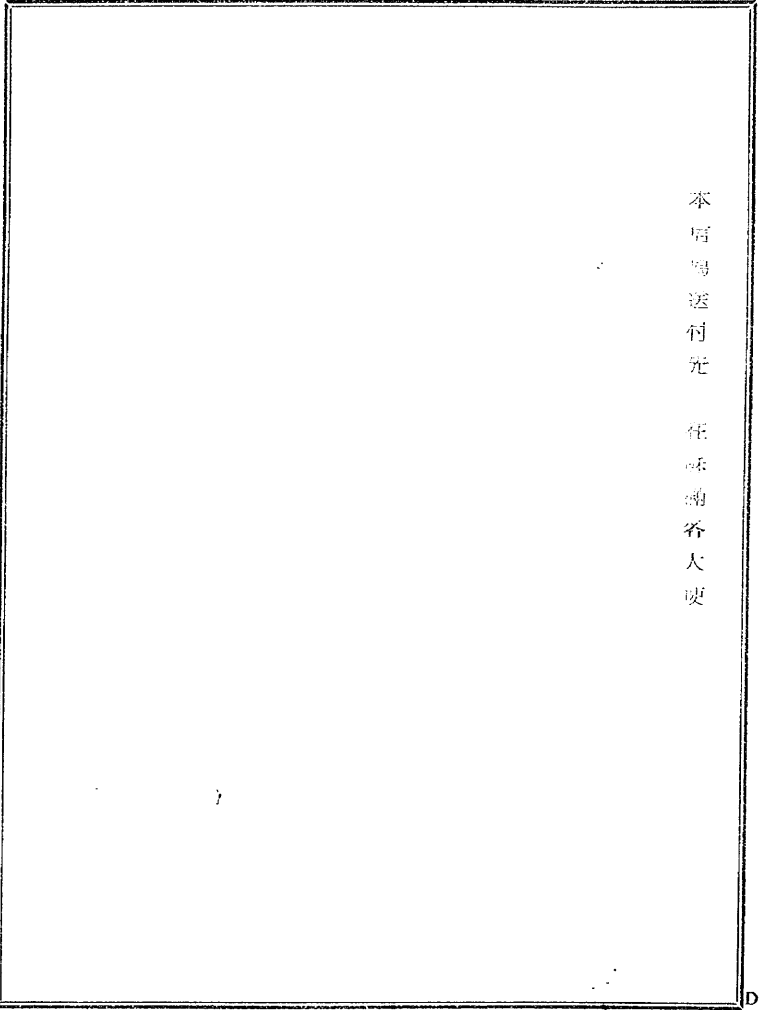
レリ

一ウラチウオストツク・トルク一「ハ」一「ス」一「チヤン」一「皮」一「アル
テム」ニ地方一トルク一「ハ」一「ウ」一「オ」一「ロ」一「フ」一「ス」一「ハ」一「ス」一「ク」一「イ」一「マ」
一「コムソモリス」一「ア」一「ハ」一「ル」一「ヒ」一「ロ」一「ヒ」一「チ」一「ヤ」一「ン」一「ク」一「イ」一「フ」一「イ」
シエウオ一「武」一「ス」一「ワ」一「ホ」一「ド」一「ヌ」一「イ」一「及」一「ル」一「フ」一「ロ」一「ウ」一「オ」一「ニ」一「フ」一「ソ」一「ラ」一「セ」
ケ二月一日ヨリ一律ニ販賣ヲ開始スルヲナレシメテ「トルク」一「及」一「タ」一「リ」一「ト」一「ル」一「ク」一「モ」一「之」一「ニ」一「合」一「同」一「人」
在來ノ中央労働者消費組合「ビシヤエ・トルク」一「セ」一「ラ」一「レ」一「イ」一「ワ」一「ノ」一「フ」一「ス」一「キ」一「一」
一「タ」一「ム」一「ホ」一「フ」一「ス」一「キ」一「一」一「タ」一「リ」一「ト」一「ル」一「ク」一「モ」一「之」一「ニ」一「合」一「同」一「人」
セリ

本件合同統一ノ旨ニ符テハ例年同様ナキニ付不山ナルモ是項廻
賃料品其ノ他日用品必需品ノ販賣促進ヲ旨統一セルニハ極力政策
以外取ハ國內内ニ例年力販賣的ノノ存在スルニ非ラスヤトモ思
セラル
右側詳細参考迄取付ス

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

1877年11月12日



本写馬送付先 任味南各大使

在ブラコウエヌチエンスク日本領事館

E-0515

0102

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米商 通商 條約 情報 文部 調查 人文 文部 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和11 二四四六 莫斯科 十日夜發 本省 二月十一日前着 歐

廣田外務大臣

第一一二號ノ一

客年往電第五七六號ニ關シ

一 本年一月以降新公定率ニ依ル露貨ノ兩替開始セラレ「トルグシ」
亦客月末限り廢止セラレタル處右措置ハ一般的幣制改革ノ前提ト
觀ル向多ク或ハ之カ實施迄ニ貨幣價格ノ切下ヲ斷行スヘシトノ說
スラ流布セラレタルモ蘇俄當局ハ過般ノ中央執行委員會會議其ノ
他ノ機會ニ於テ之ヲ絶對ニ否認シ依然從來ノ紙幣留ヲ其ノ儘存續
セシムヘキ意嚮ヲ明カニセリ他方右制度改革ニ伴ヒ急激ナル物價

外務省

引下ヲ行フヘシトノ說モ頻リニ唱ヘラレ政府自身モ屢物價引下ニ
依ル勤勞階級ノ生活改善ヲ仄シタルコトアルモ當國各企業力獨立
採算主義ヲ勵行シ居ルコト本年度豫算ニ於テ歳入ノ約七割七分ヲ
各企業ニ對スル取引税ニ依リ居ルコト等ノ事實アル一方所謂「ス
タハノフ」運動カ窮極ニ於テ一般貨銀引下ノ結果ヲ作ルヘシトス
ルモ同運動カ累進出來高拂ニ依ル以上差當リ物價引下ヲ可能ナラ
シムヘシトハ考ヘラレサルコト等ヨリ觀テ物價ノ急激ナル引下ハ
到底實現セサルモノト認メサルヲ得ス(續ク)

外務省

モスコ 十日夜發

E-0515

0103

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和11 二四四四 暗 莫斯科 十日夜發 本省 二月十一日 前着

歐

廣田外務大臣

大田大使

第一一二號ノ二

從テ今次ノ改革ハ單ニ外貨使用ノ廢止ヲ意味セルニ止マリ紙幣留
本位ノ一般國內市場ニハ何等ノ影響ヲ與ヘ居ラス
三而モ他面外貨ヲ定收入トスル在留外國人ハ新公定換算率ニ依リ兩
替スルノ外ナキニ至レル結果高價乍ラ猶法外ニ亘ラサリシ「トル
グシン」時代ニ比シ著シキ生活費ノ昂騰ヲ來セリ
例ヘハ「トルグシン」廢止令發布直前(發布後ハ値段段ヲ著シク引
上ケタリ)ニ於ケル右店舖値段ハ牛肉(骨付)一「キロ」約五十

外務省

仙、「バター」約八十仙、白麵麩(四百瓦)一個約四仙ナリシモ
ノ今日市場ニ於テハ夫々約十留(二弗)二十二留(四弗四十仙)
一留二十哥(二十四仙)トナリ馬鈴薯其他野菜類等價格ノ變化少
キ品目ヲ計算ニ入ルルモ專ラ當地ニ於テ購入セサルヲ得サル食糧
品其ノ他ノ必需品ノ物價ハ平均二倍以上ノ騰貴(被服其ノ他、工
業製品、外國ヨリノ輸入品等ニ付テハ此ノ騰貴率四倍以上ナリ)
ヲ見タリ

更ニ本月ヨリ當國ニ於テハ外貨使用ノ途絶望トナレル爲使用人ニ
對スル給料モ全部露貨ヲ以テ支拂ハサルヘカラサルコトトナリタ
ルヲ以テ此ノ點ニ於テモ支出ノ増加ヲ見積ラサルヘカラス(續ク

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和11

二四四二

昭

モ

莫斯科

本省 二月十一日 前着

歐

廣田外務大臣

大田大使

第一一二號ノ三

右事態ニ基キ當國外交團員、新聞特派員其ノ他ハ之カ對策ニ付協
議シ居タルカ外交團側ヨリ本使ニ對シ蘇側ニ於テモ在留外國人ノ
立場ヲ考慮シ緩和手段ヲ講スル様交渉方依頼申出テタリ
依テ本使ハ客月二十五日外務人民委員代理ニ對シ外交團員ノ實際
的困難ヲ説明シ一部「トルグシン」ノ存續又ハ之ニ代ルヘキ何等
カノ緩和手段ヲ講セラレ度キ旨要望シタル處同代理ハ幣制統一ノ
手段トシテ「トルグシン」廢止ヲ斷行シタルモノナレハ之カ存續

外務省

ハ部分的ト雖到底容認シ得サルコト及物價ノ高キコトハ之ヲ認ム
ルモ國ニ依リテ高低アルハ當然ノコトニシテ之ニ付外交團ヨリ不
平ヲ總クヘキ筋合ニアラス從テ到底良結果ハ得ラレサルヘント思
考スルモ右ノ希望ハ一應之ヲ關係官廳ニ通達スヘキ旨ヲ約セルカ
次テ儀禮部長ヨリ當該官憲ニ於テ審議シタルモ蘇聯國法ニ矛盾ス
ルヲ以テ外交團ノ要望ニ副ヒ得サル旨回答越シタリ(續ク)

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和11 二四四一 昭 莫斯科 十日夜發 本省 二月十二日前着

廣田外務大臣

第一一二號ノ四

大田大使

從テ當地在留外國人ハ大イニ恐慌ヲ來シ外國通信員中ニハ全然引揚ケ又ハ「リガ」其ノ他生活幾分安易ノ地ニ轉任ヲ命セラレタルモノアリ或ハ我同盟通信出張員ノ如ク一時本據ヲ伯林ニ移シ待機スヘントノ決定ヲ見タルモノアリ形勢此ノ儘繼續スルニ於テハ利害關係比較的薄キ諸國等ハ大公使館員ノ一部引揚ヲ爲ス外ナカルヘントノ說專ラナリ
三、蘇聯ノ對外貿易ニ付テハ從來殆ト外貨建取引ニ限ラレ居リ今次ノ

外務省

換算率改正カ國內使用ノ留ニ局限セラレ未タ對外爲替ノ標準トナルニ至ラサル關係上依然外貨建取引ヲ繼續スルモノト認メラル

(了)

外務省



歐亞局

公第五七號

昭和十一年三月二十日

在歐市

昭和三十二年三月廿五日接受

領事代理 下 野 末



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

「トルクソン」ノ業績統計ト題スル
記事譯取ノ件

「トルクソン」ノ業績統計ト題シ「エル・ユルゲンソン」ノ名ヲ以
テ一九二六年再再外典貿易誌第一號ニ掲載セラレタル記事同等ニ考
査別添ノ通譯敬ス

分類 E-2-1.0. /)

在ブラゴウエスチエンスク領事館

「トルクソン」ノ業績統計
國民經濟ノ更ニ發展ヲ目的トスル第一次五箇年計畫ノ達成ハ偉大ナ
ル社會主義建設計畫ヲ實現シ以テ本國ノ技術的經濟的獨立ヲ清
算スルニ任リキ
斯クテ所定建設ニ個人促進ノ爲ニハ國內資源ノ動員コソ必要ナリ
キ
依テ蘇聯邦ハ偉大ナル社會主義工業建設ニ必要ナル輸入計費實現ノ
爲聯邦ヲ促進シ採金産ヲ増大シ以テシテ聯邦ノ幣資源ヲ動員スルト共
ニ住民ノ貯蓄スル外資及金銀ノ如キ國內資源ヲモ吸収セリ
尙尙是のニ國內資源資源ヲ増進シ同時ニ切符制度下ニ外人観光客ニ
奉仕スル爲一九二〇年七月蘇邦商業八民委員部ノ特別業務所タル
所謂「トルクソン」ナルモノ設立セラレタリ
「トルクソン」ノ設立後聯邦ノ業務ハ港市及邊境科ニ於ケル外資商業
ニ限定セラレテ舌タルモ一九二一年一月四日外國商業八民委員部系
下ニ全權邦代表「トルクソン」官同設立セラレタルヤ其ノ業務ハ偉大

在ブラゴウエスチエンスク領事館

セラレ外貨吸收納及國外ヨリノ為替取引ト共ニ資金等ヲモ收納スルニ至ル

然ルニ一九三一年ハ商業試験ノ年タリシヲ以テ一九三一年ニ於ケル「トルクシン」ノ業務ハ額ニ六、九五二、〇〇〇留ノ取引高ニ終始セリ

茲ニ於テ一九三二年ニハ理金前年第四期ニハ舊帳實ヲモ住民ヨリ收納スル事トナリ

左レト「トルクシン」ノ額ノ補大額償物品ノ吸收ニ依リ業務ノ一大飛躍ヲ見タルハ一九三二年ノ第四期ヨリトス即チ一九三二年第二期ニ於ケル有償物品ノ輸入額ハ一、七〇〇、〇〇〇留ナリシニ第三期ニハ一、九〇〇、〇〇〇留ニ増加シ第四期ニモ同一水準ヲ保持シ同營業年度ノ實額有償物品吸收高ハ四九、二九二、三〇〇留ニ及ヒ所定計畫ノ八六・四%ヲ遂行セリ

從來「トルクシン」ノ此種業務ニ於ケル實額吸收ノ正計畫ヲ未遂行ニ終ラシメタル原因ヲ考察スレハ左ノ通

在ブラゴウエスチエンスク領事館

(一) 實收額ノ組織官シキラニハツ基ノ成ラクテハニニシテハサ
リシ等

(二) 為替取引手續ノ複雑ナラザリシ事

(三) 爲替トハ關ヨリノ因縁業務面ノ相互關係ノ研究不十分ナリシ事

(四) 港都市ニ於ケル地方ノ貿易ハ度々力ナカリシ事

(五) 外國對ニ對スル供給不十分ナリシ事

(六) 有經驗幹部員ノ不足セル事並ニ業務ノ管ナラザリシ事

一九三三年初メテ上列ノ欠陥除去セラレタルニ依リ「トルクシン」ノ取引高ハ増大ノ趣ニ向ヘリ

斯クテ「トルクシン」ノ商業額ハ一九三三年一月一日ノ時〇二萬圓ヨリ七月一日ニハ一、二二七萬圓ニ、一九三四年十一月一日ニハ一、トログシン」ノ存續期面中ノ最高額クル一、五二六萬圓ニ及ヘリ同時ニ有償物品ノ輸入モ激増シ國外ヨリノ銀、金及爲替勘定ハ第一額ノ二六、四〇〇、〇〇〇留ヨリ第二期ニハ三三、〇〇〇、〇〇〇留ニ増大セリ

在ブラゴウエスチエンスク領事館



同年「トルクシ」ハ一一、二〇、〇〇〇金留ヲ國家ニ納シ
 及政府ノ年計書ヲ題述行セリ
 「一九三三年ニケル」トルクシ「義務ノ海軍ハ四眼胃ノ義務ヲ始
 メ年末ニハ後石買取業務ノ活況ヲ呈セル事ナリ
 「トルクシ」ノ取引高ハ其ノ存続額中一九三三年ニ最高額ヲ示
 セリ同年ニハ外債賣券ノ「バランス」モ出超ヲ示シ採金費モ確固
 増大セリ
 所ルカ故ニ「トルクシ」ハ其ノ債務ヲ縮小スル目トナリ一九三四年
 年ニハ一九三三年ノ課題ヨリ五五%一九三五年ニハ同年ノ課題ヨリ
 四〇%縮小セリ
 一九三五年「一九三五年間」トルクシ「ハ憲法政府ノ管理ヲ
 組織的ニ遂行セリ即チ一九三五年ニハ十一月十日迄「一一〇〇」
 五%ヲ遂行シ終年ニハ一一九・二%ヲ遂行セリ
 物品販賣計「一九三五年十二月七日」メテ前ニ遂行セラル一
 九三五年下半年期以降ニハ「トルクシ」ハ極品所定ノ管理ヲ在庫ス

在ブラゴウエスチエンスク領事館

ルニ計メタリ
 「トルクシ」ハ其ノ存続額中「二八七、〇〇〇」金
 留ヲ國內ニ於テ動員セリ
 「トルクシ」ノ遂行セル義務ノ「極度」ハ左ノ如クニ示シ判明
 シ得ヘシ
 一、四年間「トルクシ」ノ義務セル「極度」ノ「極度」ハ左ノ如クニ示シ判明
 額スル割合ヲ税關統計ニ依リ算出スルニ示セハ左ノ如ク
 年 度 別 輸 入 別 輸 出

| | | |
|-------|-------|-------|
| 一九三二年 | 八・六% | 七・〇% |
| 一九三三年 | 二五・三% | 三三・〇% |
| 一九三四年 | 一六・〇% | 二八・三% |
| 一九三五年 | 一三・八% | 二〇・六% |
| 平均 | 一九・五% | 一八・五% |

二、「トルクシ」ノ「輸出」收「レタル」貨物ハ「十大社會主義」工業
 用トシテ輸入セラレタル「貨物」ノ「割合」ヲ超過ス

在ブラゴウエスチエンスク領事館



三、着シ二八七、〇〇〇、〇〇〇ノ額ヲ輸出ニ依リ取得セントセハ「トルクシン」一カ國內ニ於テ小賣階段ニテ販賣セルヨリモ多量ノ輸出品ヲ輸出スル必要アリシナラン尤モ「トルクシン」ハ非輸出品ヲ販賣シ居ルモ之ハ不問、謝シテノ事ナリ

此、「トルクシン」ハ其ノ業務擴大ニシテ一九三三年ニハ輸出合同中政府秀成ノ一タリキ尤モ一九三四年及一九三五年ニハ木材ニ其ノ地位ヲ讓レリ

向「トルクシン」ノ領シタル主要役種ヲ擧クレハ左ノ通

イ 襪類引外套、帽子、「ペレ」一帽、新煙靴、新式種物、品、新式高級石炭及化粧品、磁器用番書器、番書器取ノ如キ各種新式必需品製造工業ニ對スル功績

ロ 味味部ノ商業ニ又付寄往及方法ヲ領付ケタル功績

ハ 五年前ニシテ「熱線」業從中幹部員ヲ一咸セル功績

一九三五年ノ支那「バラン」一ハ同部セルニモ同ハラス等「バラン」出超ノ爲ニ最近三年間ニ於ケル出超「バラン」一ハ四〇〇、〇〇〇、〇〇〇ノ額ニ達シタル事ニ對シテ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

〇〇〇、〇〇〇ノ額ニ達スルニ至リテ「トルクシン」ノ外販賣易貨債ハ激減シ日幣ハ著大増ニ増加シ一九三五年ノ外金計額ハ一九三四年十一月二十八日期帳前ニ逐行セフレ而モ切符面數減半ノ結果正定ナル結果ニ成リ外八國尤各ニ奉仕シ得ルニ至リタタル事ハ相俟ツテ政府ニ一九三六年二月一日ヲ期シ全額「トルクシン」一合同履行ノ決定ヲ公布セシムル根據ヲ與ヘメリ

多數ノ資本主義國ハ世界的經濟危機ノ打撃ヲ蒙リ平賣切下、金本位離脱、紙幣需要ノ餘額ナキニ至ル爲ニ物價騰貴、貨幣的貨賦低下ヲ來シ勤勞大衆ノ物的状態ハ程度ニ悪化セリ

然ルニ蘇聯邦ハ之ト正反對ノ状況ニ在リ事ヲ論ハ不購ニ強比セラレ物價ハ計議的ニ低下シ買ノ購買力ハ高騰シ貨幣的ニ貨賦ハ上昇スル等以テ公開市場ニ依ル商取引股價ノ求價ヲ培ヒツツアリ

是レ即チ政府ノ「トルクシン」一發中決定カ我國金勸券者ヨリ強復ヲ以テ歡迎セラレタル所以ナリ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

政府ノ本決定ハ曠ク外國ノ新聞ニモ反映シ何レモ本決定ヲ以テ露國
強化ノ重要指圖ナリト評論セリ
「トルクシン」報ハ同時ニ露國部カ民衆ノ頌詞「スターリン」氏
ノ天才的指導下ニ露國タル成功ヲ収メタル一證左タリ

在ブラゴウエスチエンスク領事館

E-0515